

地域の活性化と観光に関する 意識・実態調査報告書

2008年3月

財団法人 経済広報センター

はじめに

わが国経済の活力を維持し、地域経済を活性化につなげる観点から、「観光」の役割が注目されております。政府は、2010年までに訪日外国人旅行者数を1000万人に増大させることを目標として、日本の魅力を海外に発信する、ビジット・ジャパン・キャンペーンを実施しています。また、「観光」による人的交流を通じ、相互理解の促進と友好関係の強化が期待されております。

そこで、経済広報センターは、このたび、全国の様々な職種、世代により構成されている当センターの「社会広聴会員」を対象に、「地域の活性化と観光」について調査しました。「社会広聴会員」が外国人観光客の受け入れについてどう考えているか、地域経済の活性化の観点から外国人観光客の受け入れを増やす方策などを調査しました。

今回の調査からは、多くの生活者が、外国人観光客の受け入れが、地域の活性化につながると考えていること、相互理解を深めるきっかけになるなど外国人観光客の増加を積極的に受け止めていることが浮き彫りになりました。また、自分たちが国内観光旅行をする場合には、自然の豊かさを第一の決め手とするのに対し、外国人観光客にとっては日本の歴史・文化が魅力になるはずとしているなど、観光産業にとって何をアピールするかという課題の違いも発見することができました。特に外国人観光客を増やす上で、日本人の心理的な環境の整備、もてなし文化の普及がまず必要との指摘は貴重なものと思います。

本報告書が、各地域における「観光」の役割、産業の在り方などを考える上で一助になれば幸甚です。

財団法人経済広報センター
常務理事・事務局長

田 中 秀 明

目 次

はじめに	1
調査結果の概要	4
調査結果データ	
1. 国内観光旅行	8
2. 海外観光旅行	14
3. 観光旅行の目的	23
4. 観光旅行に費やす日数	24
5. 観光産業の推進と地方の活性化	26
6. 外国人観光客の受け入れ	27

調査結果の概要

1. 「1～3回」の国内観光旅行が51%、「1～2回」の海外観光旅行が27%

2007年（1月1日～12月31日）の観光旅行については「国内観光旅行に行った」は92%で、そのうち「1～3回」が51%である。「海外観光旅行に行った」は33%で、そのうち「1～2回」が27%。観光旅行に費やした日数は国内で「1～7日未満」が66%、海外は、「1～7日未満」が49%。1回当たりの観光旅行は、旅行日数で、国内観光旅行が3日程度、海外観光旅行でも4日程度。後者について滞在日数から想定すると海外近隣諸国への旅行者が多いと思われる。

2. 観光地を選ぶ決め手は国内観光旅行が「自然の豊かさ」で57%、海外観光旅行は「歴史・文化」で61%

観光地を選ぶ決め手は、国内観光地の第1位は「自然の豊かさ」（57%）、第2位は「歴史・文化」（49%）、第3位は「宿泊施設」（47%）、第4位は「温泉施設」（46%）、5位は「食事の魅力」（46%）、第6位は「観光地およびそこまでのインフラの充実」（40%）。世代別では、29歳以下、30歳代で「食事の魅力」、40歳代は「宿泊施設」、50歳代、60歳以上は「自然の豊かさ」が第1位。

海外観光地の第1位は「歴史・文化」（61%）、第2位は「観光地およびそこまでのインフラの充実」（53%）、第3位は「旅行費用の安さ」（45%）、第4位は「自然の豊かさ」（44%）、第5位は「宿泊施設」（41%）、第6位は「旅行商品の豊富さ」（34%）。

国内観光旅行では自然や歴史といった主目的に加え、施設、食事などというアメニティが重視され、海外観光旅行では歴史などの目的以外に交通の利便性などが考慮されている。

3. 観光旅行の目的は「娯楽、ストレス解消、リフレッシュ」が91%

観光旅行をする目的は「娯楽、ストレス解消、リフレッシュ」が91%と最も多い。続いて「体験、異文化に触れる」（69%）、「自己啓発、学習」（30%）。

4. 観光産業の推進が地方の活性化に「つながると思う（大いに/ある程度）」が95%

日本の観光地での観光産業の推進が地方の活性化に「大いにつながると思う」（42%）と「ある程度つながると思う」（53%）を合わせると95%と、生活者は観光産業の推進が地方の活性化に役立つと考えている。

5. 日本の観光地に外国人観光客が「増えてほしい（大幅に/多少）」が84%

日本の観光地に外国人観光客が「大幅に増えてほしい」（45%）と「多少増えてほしい」（39%）を合わせると84%と、圧倒的多数が外国人観光客増加に積極的。

外国人観光客が「増えてほしい」の理由は、「地域活性化につながる」（54%）、「日本をもっと知ってほしい」（49%）、「観光振興につながる」（40%）、「地域経済が潤う」（36%）、「日本の新たな魅力を引き出すことができる」（32%）の順になっている。経済的理由（「地域活性化につながる」「観光振興につながる」「地域経済が潤う」）と日本の理解促進（「日本をもっと知ってほしい」「日本の新たな魅力を引き出すことができる」）の2つの考え方が上位を占めている。生活者は外国人観光客の増加に開かれた態度や考えであることが分かる。

少数（8%）である外国人観光客が「増えてほしくない」の理由は、「治安が悪化するのではないかと心配である」が73%。治安問題にしっかり対応すれば外国人観光客増加への懸念が減り、外国人観光客を歓迎する傾向が強まると思われる。続いて「外国人が多いと自分も含め日本人がリラックスして観光できない」（31%）と「外国人が多く来ると対応などに不安がある」（30%）が3割程度と、外国人観光客に対する心理的な不安が存在していることがうかがえる。

6. 外国人が日本の観光地に感じる魅力は「歴史・文化」が82%

外国人にとって日本の観光地の魅力については、「歴史・文化」（82%）、「治安の良さ」（53%）、「自然の豊かさ」（29%）が上位を占めており、日本の伝統に魅力があると推測している。

7. 外国人観光客を増やすために必要なことは「外国人を受け入れる心理的な環境の整備」が45%

外国人観光客を増やすために必要なことについては「外国人を受け入れる心理的な環境の整備」が45%、続いて「外国語表示の充実」（39%）、「外国人のニーズに合ったサービス・施設・設備の提供」（35%）、「インフラの整備」（30%）。それぞれの地域だけでなく、日本全体として外国人を受け入れる「気持ち」など心理的な環境を整えることが何よりも課題であり、加えて、「外国語表示の充実」や「ニーズに合ったサービス・施設の提供」「インフラの整備」の充実については、広域連携が必要であろう。

- ・調査名：観光に関するアンケート
- ・調査対象：3,008人
- ・調査方法：インターネットによる回答選択方式および自由記述方式
- ・調査期間：2007年12月14日～12月26日
- ・有効回答：2,079人（69.1%）
- ・回答者の属性：
 - 男女別：男性（907人、43.6%）、女性（1,172人、56.4%）
 - 世代別：29歳以下（224人、10.8%）、30歳代（310人、14.9%）、40歳代（627人、30.2%）、50歳代（451人、21.7%）、60歳以上（467人、22.5%）
 - 職業別：会社員・団体職員・公務員（917人、44.1%）、会社役員・団体役員（102人、4.9%）、自営業・自由業（155人、7.5%）、パートタイム・アルバイト（259人、12.5%）、専業主婦・夫（357人、17.2%）、学生（46人、2.2%）、無職・その他（243人、11.7%）
 - 居住地別：三大都市圏（1,604人、77.2%）、地方圏（469人、22.6%）

*三大都市圏・・・東京圏（埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県）、名古屋圏（岐阜県・愛知県・三重県）、大阪圏（滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県・福井県）の14都府県

調査結果 データ

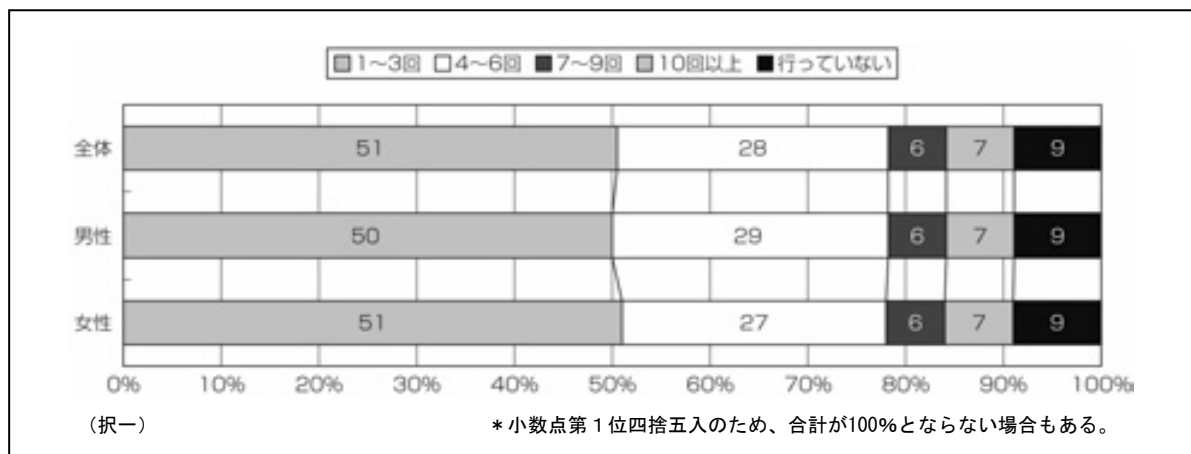
1. 国内観光旅行

国内観光旅行に年「1～3回」の回答が51%

2007年（*1月1日～12月31日）の1年間に国内の観光旅行に「1～3回」（51%）と「4～6回」（28%）行ったとの回答を合わせると79%となり、「7～9回」（6%）と「10回以上」（7%）を合わせると9割を超える生活者が国内旅行をしている。（図1）男女別（図1）に見てもほとんど差はない。

国内観光旅行に「行っていない」（9%）と回答した生活者に理由を聞くと、「旅行に行く時間がとれないから」（52%）と「費用が掛かり過ぎるから」（18%）で70%となっている。

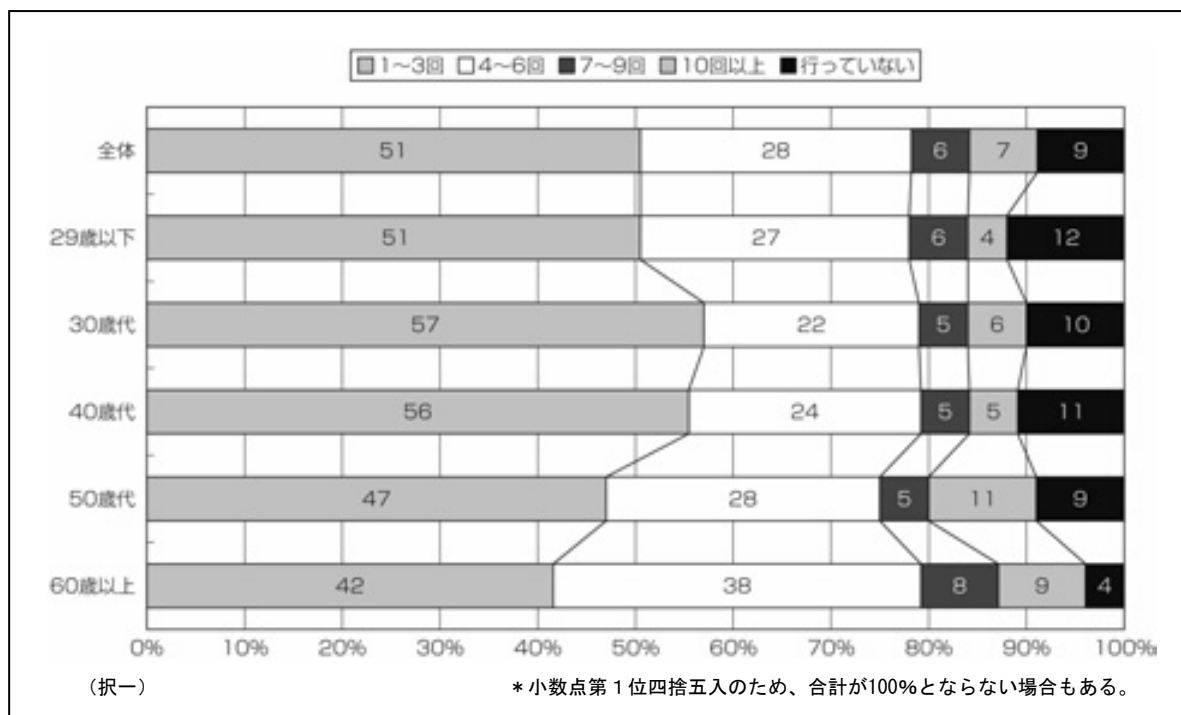
図1 国内観光旅行の回数（全体・男女別）



世代別（図2）に見ると29歳以下から40歳代までは、「1～3回」が50%を超えている。しかし、50歳代と60歳以上は「1～3回」が50%を下回っている。30歳代以上では、世代が上がるにつれて「4～6回」「7～9回」が高く、国内観光旅行の回数が多くなっている。

*調査期間が2007年12月14日～12月26日のため、年末の予定も含む。

図2 国内観光旅行の回数（全体・世代別）

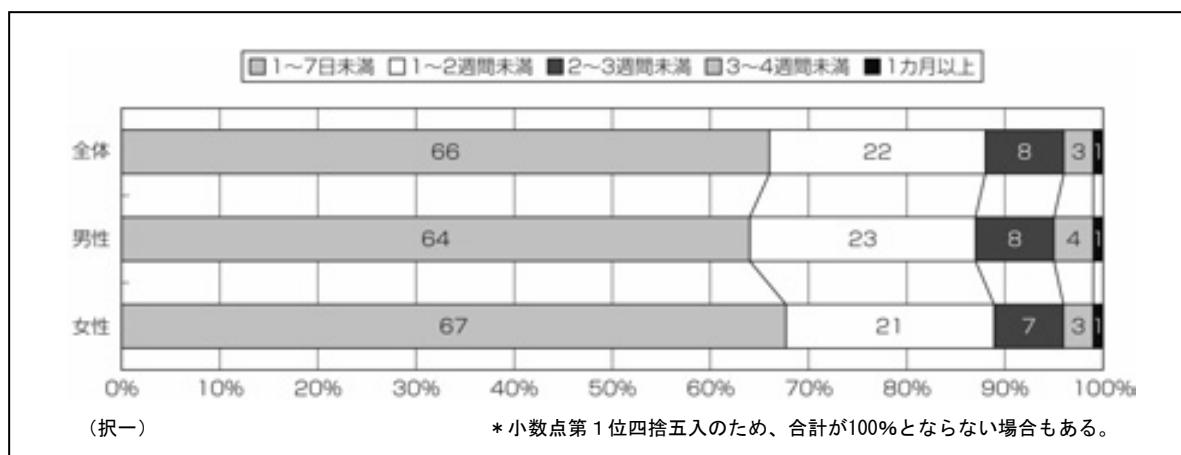


国内観光に費やした日数は「1～7日未満」が66%

国内観光旅行に行ったと回答した生活者に1年間に費やした日数を聞いたところ、「1～7日未満」が66%で、半数を超えている。また、2週間以上が10%を超えている。1年間に「3回」ということを加味すると、1回当たり1泊2日か2泊3日程度であることが分かる。(図3)

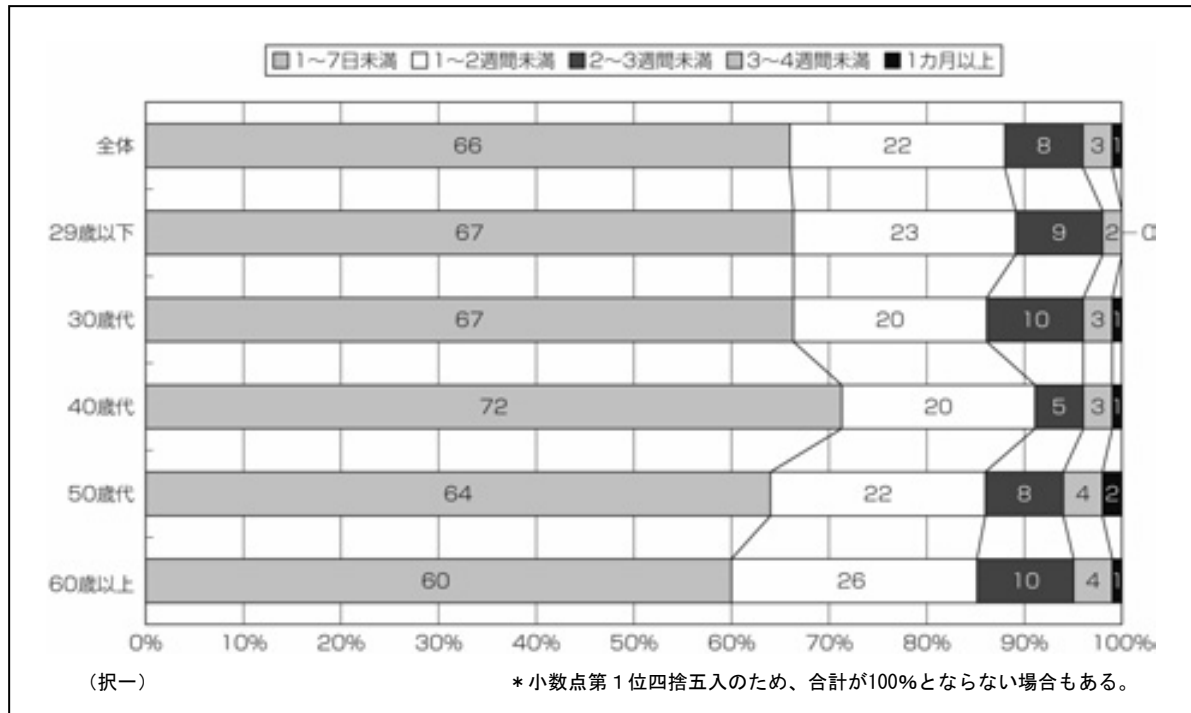
男女別(図3)を見ると「1～7日未満」の旅行で、女性が男性より高い。

図3 国内観光旅行の日数（全体・男女別）



世代別（図4）に見ると50歳代以上では、「1～7日未満」が減少し、「1～2週間未満」「2～3週間未満」が多くなる。

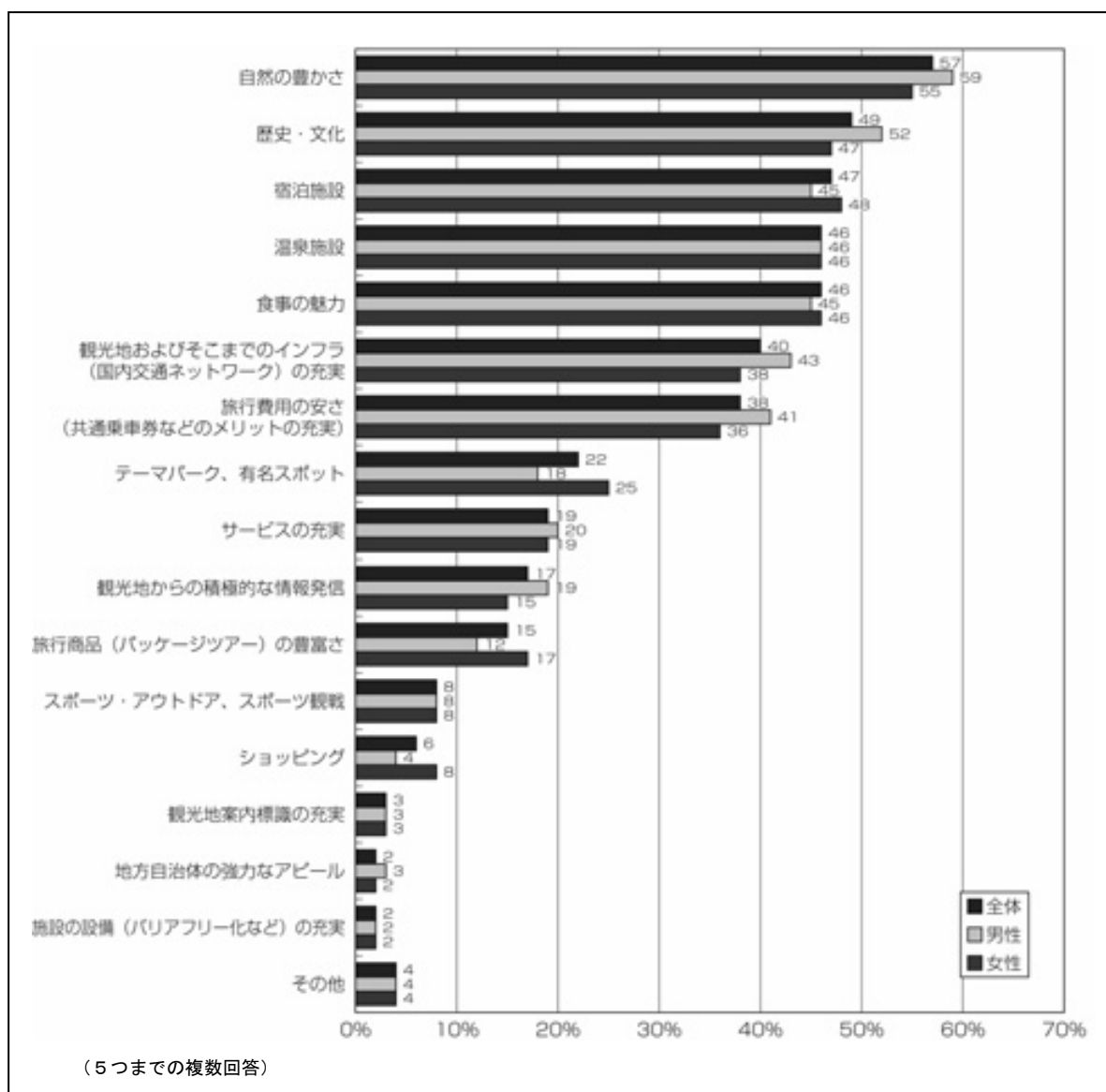
図4 国内観光旅行の日数（全体・世代別）



国内の観光地を選ぶ決め手は「自然の豊かさ」が57%

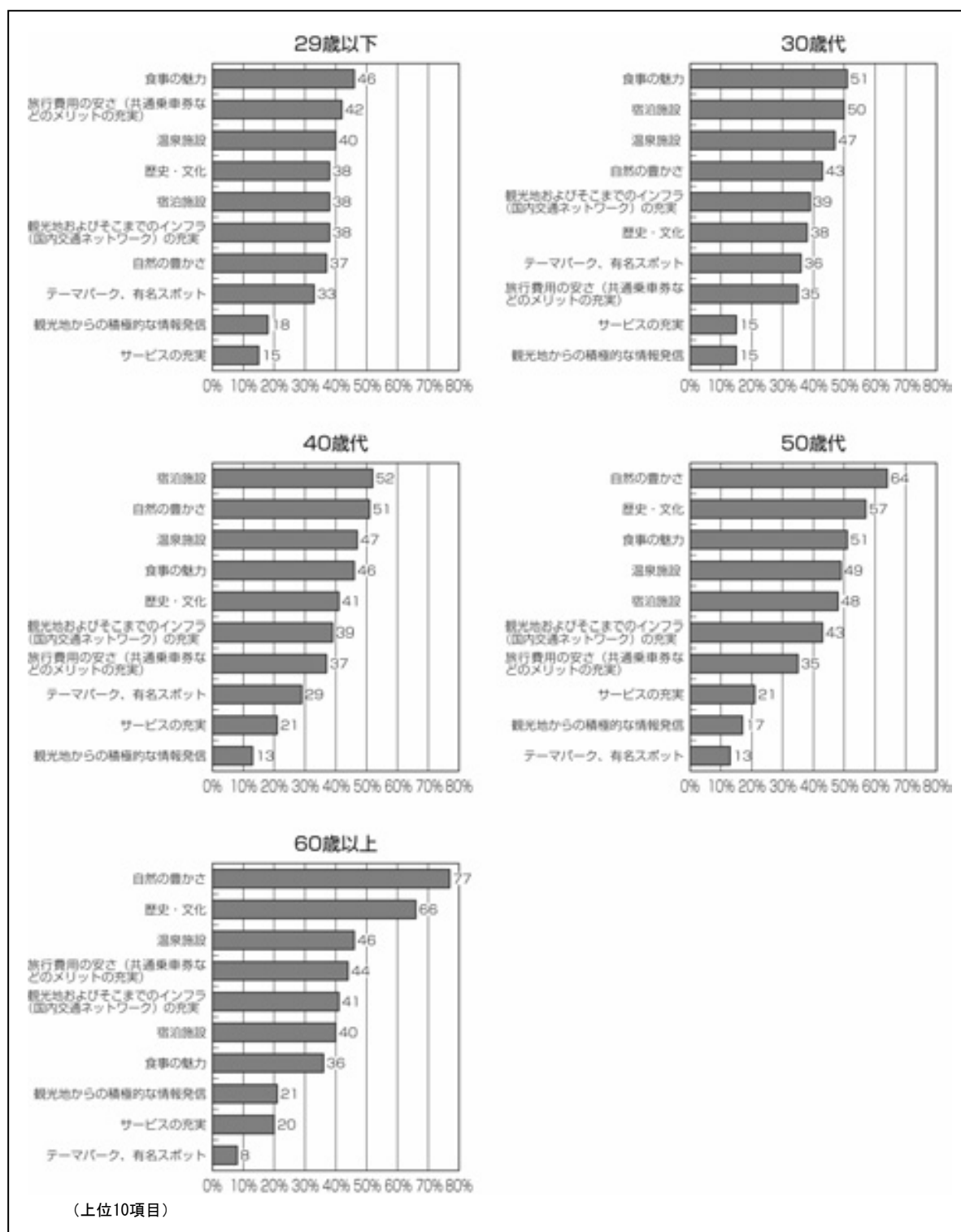
国内の観光地を選ぶ決め手について聞いてみると「自然の豊かさ」(57%)、「歴史・文化」(49%)、「宿泊施設」(47%)、「温泉施設」(46%)、「食事の魅力」(46%)、「観光地およびそこまでのインフラ（国内交通ネットワーク）の充実」(40%)の順になっている。また、「宿泊施設」「温泉施設」「食事の魅力」「観光地およびそこまでのインフラ（国内交通ネットワーク）の充実」など具体的な観光地を想定していると思われる回答が4割となっている。（図5）

図5 国内観光地を選ぶ決め手（全体・男女別）



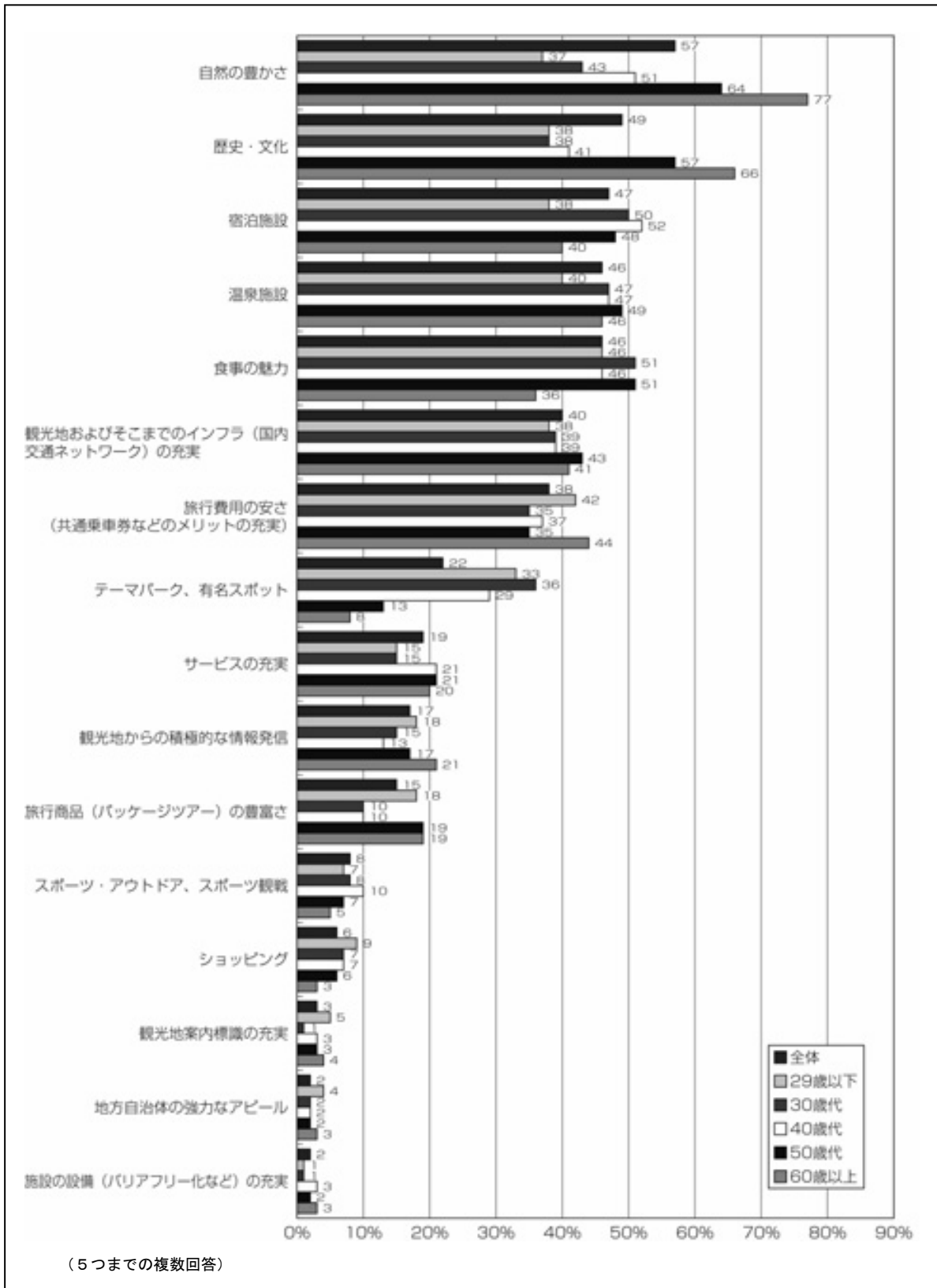
世代別（図6）に見ると29歳以下、30歳代では「食事の魅力」との回答が最も多い。30歳代、40歳代は「宿泊施設」がほぼ5割の回答となっている。50歳代、60歳以上は「自然の豊かさ」「歴史・文化」が、上位を占め半数を超える回答となっている。世代により、国内観光地を選ぶ決め手が異なる。

図6 国内観光地を選ぶ決め手（世代別）



項目を世代別（図7）で見ると「自然の豊かさ」で世代が上がるにつれて、回答が高くなっている。「歴史・文化」は50歳代以上で回答が多くなっている。一方「テーマパーク、有名スポット」「ショッピング」は若い世代の方が高くなっている。

図7 国内観光地を選ぶ決め手（全体・世代別）

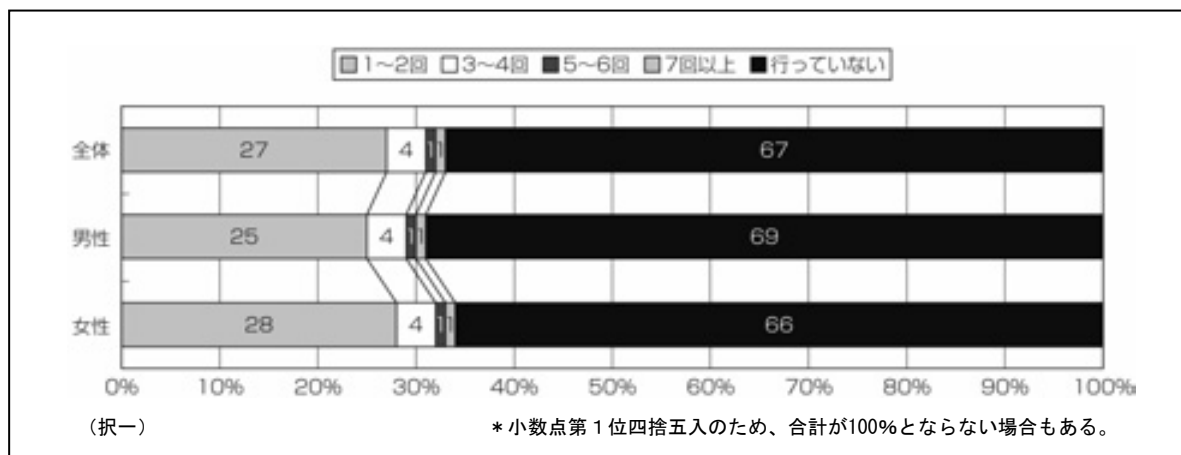


2. 海外観光旅行

海外観光旅行に最も行っていないのが40歳代

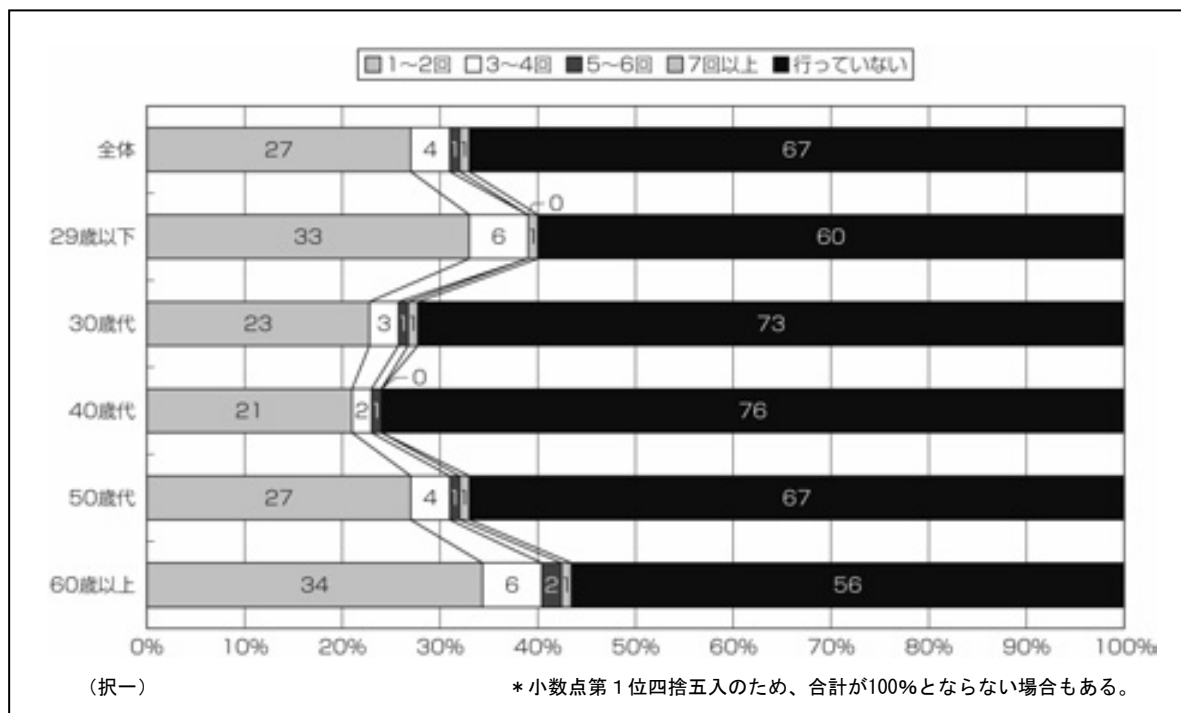
2007年（1月1日～12月31日）の1年間に海外観光旅行に「1～2回」行ったとの回答は27%、続いて「3～4回」が4%である。生活者の3人に1人が海外観光旅行をしている。（図8）

図8 海外観光旅行の回数（全体・男女別）



世代別（図9）に見ると29歳以下と60歳以上で「行っていない」が他の世代に比べ低く、40歳代が最も高くU字型になっている。

図9 海外観光旅行の回数（全体・世代別）

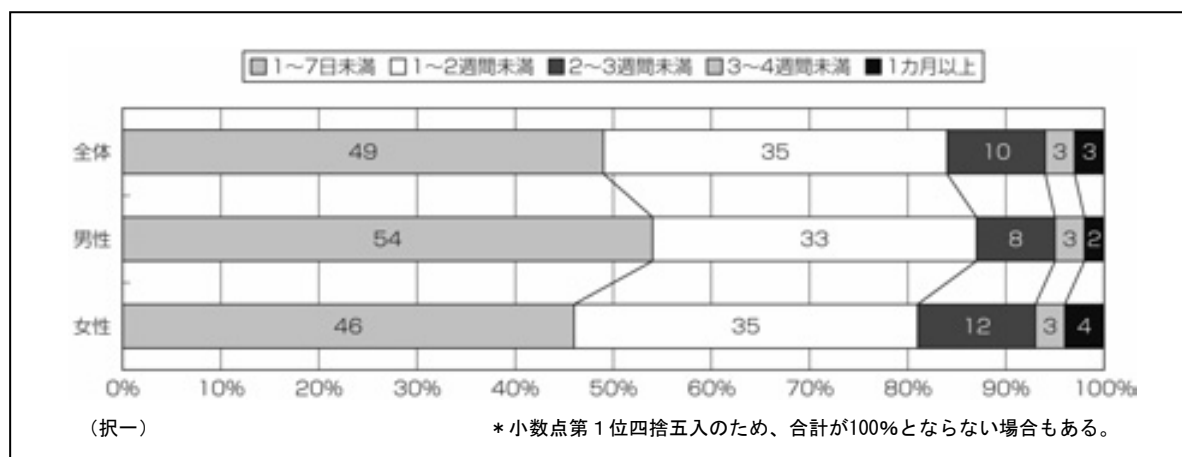


海外観光旅行に費やした日数は「1～7日未満」が49%

海外観光旅行に行ったとの回答のうち「1～7日未満」が49%でほぼ半数が1週間未満である。「1～2週間未満」は35%となっている。「2～3週間未満」(10%)、「3～4週間未満」(3%)と「1カ月以上」(3%)と日数が増えるにつれて低くなっている。つまり、2週間以上の長期あるいは複数回の海外観光旅行をしているのは、生活者の16%しかいない。(図10)

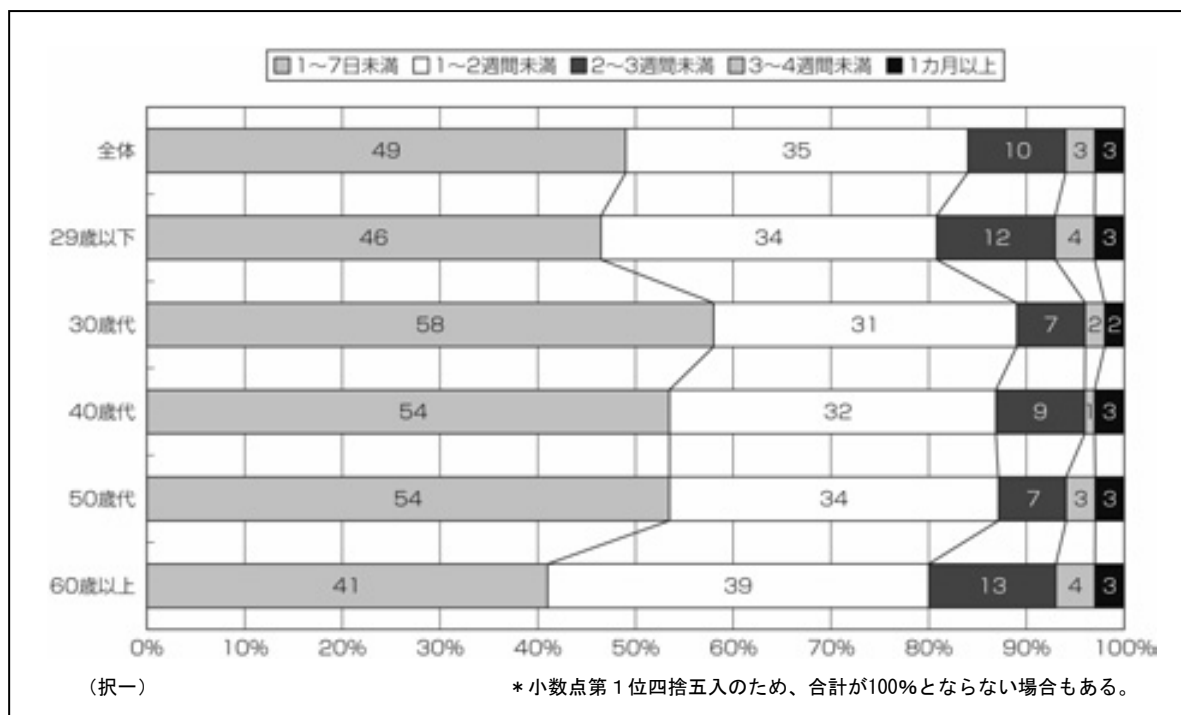
男女別(図10)に見ると「1～7日未満」では、男性の方が女性より高いが、それ以外のすべての日数選択肢で女性の方が男性より高い。

図10 海外観光旅行の日数(全体・男女別)



世代別(図11)に見ると29歳以下と60歳以上では他の世代に比べ「1～7日未満」が低くなっている。他の世代に比べ時間的ゆとりがあり、海外観光旅行をしている。30歳代、40歳代、50歳代は「1～7日未満」が半数を超え、長期の海外観光旅行が難しい世代といえる。

図11 海外観光旅行の日数（全体・世代別）

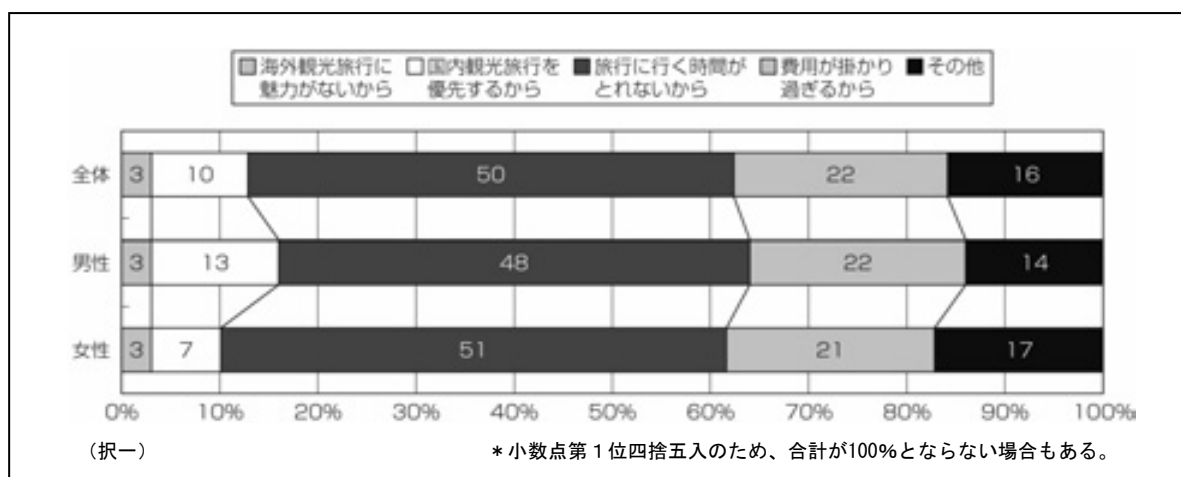


海外観光旅行に「行く時間がとれないから」と「費用が掛かり過ぎるから」で72%

海外観光旅行に「行っていない」理由としては「旅行に行く時間がとれないから」(50%)、続いて「費用が掛かり過ぎるから」(22%)となっており、時間と費用が原因で海外観光旅行に行っていない生活者が7割を超えている。また、10%の生活者が「国内観光旅行を優先するから」と回答している。(図12)

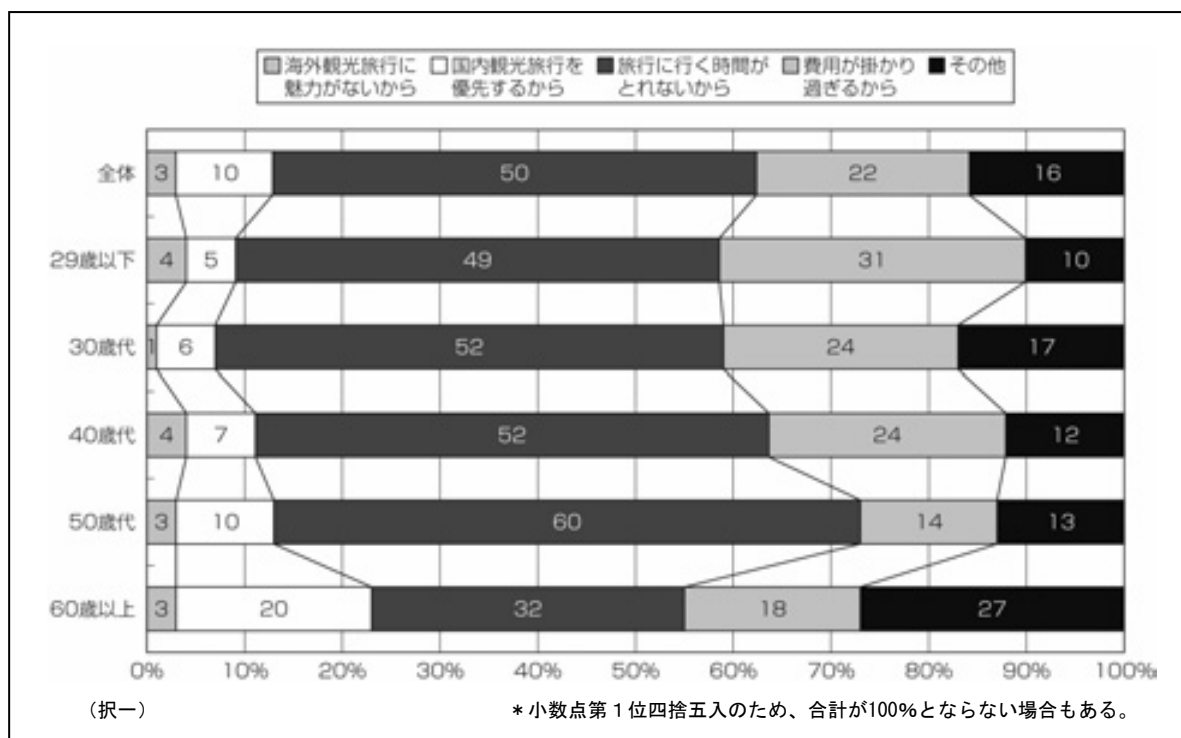
男女別(図12)に見ると「旅行に行く時間がとれないから」の回答は女性の方が男性より若干高い。一方「国内観光旅行を優先するから」では、男性(13%)は女性(7%)より6ポイントも高くなっている。

図12 海外観光旅行に行っていない理由（全体・男女別）



世代別（図13）に見ると「旅行に行く時間がとれないから」は29歳以下（49%）、30歳代（52%）、40歳代（52%）が5割程度で、ほぼ同様の傾向になっている。50歳代は60%で最も高い。一方、60歳以上は32%と最も低くなっている。また、「国内観光旅行を優先するから」は、29歳以下（5%）、30歳代（6%）、40歳代（7%）で、ほぼ同様の割合だが、50歳代以上ではその傾向が強まっている。

図13 海外観光旅行に行っていない理由（全体・世代別）

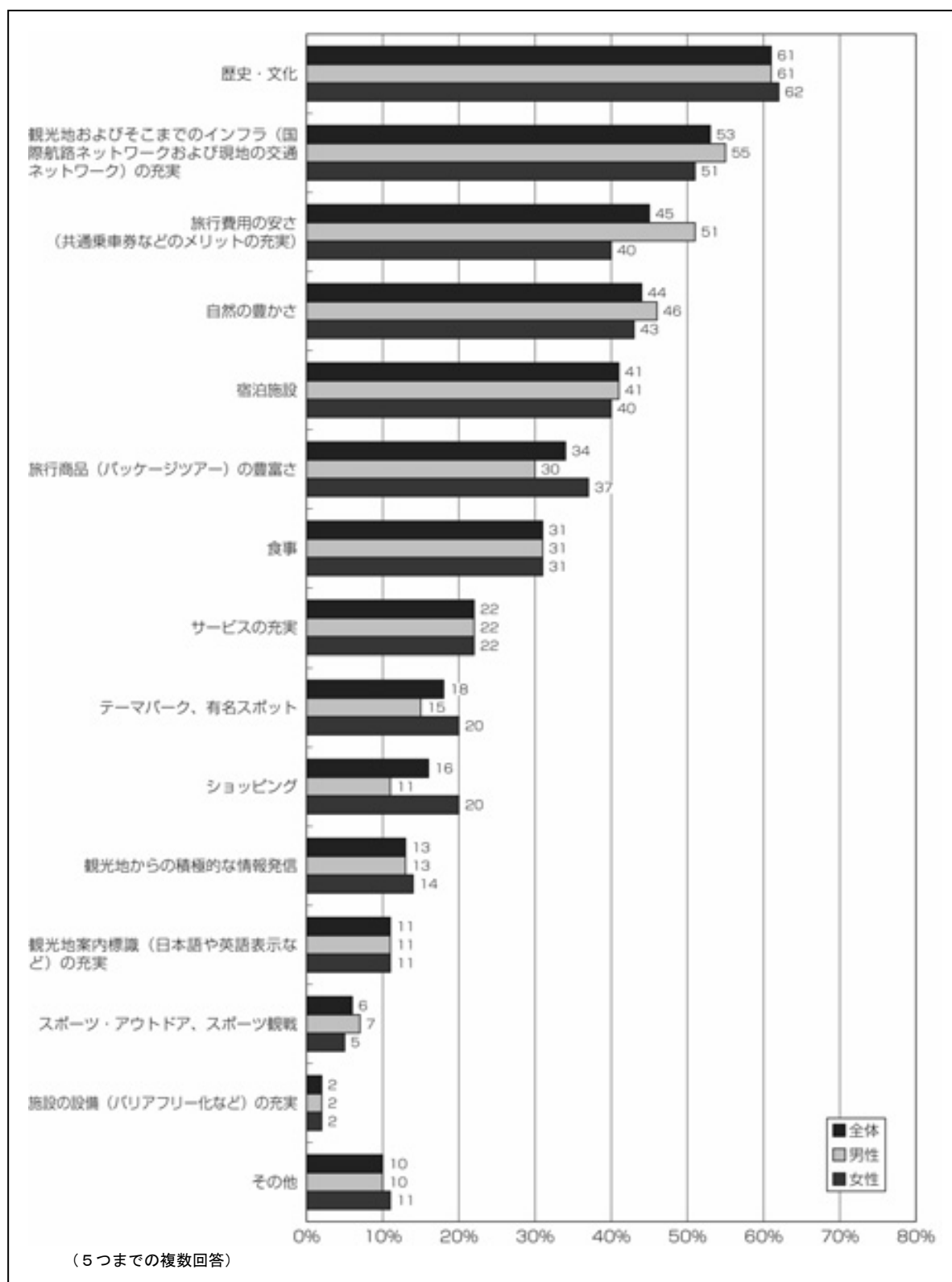


海外の観光地を選ぶ決め手は「歴史・文化」が61%

海外の観光地を選ぶ決め手については「歴史・文化」(61%)と「観光地およびそこまでのインフラ(国際航路ネットワークおよび現地の交通ネットワーク)の充実」(53%)が半数を超えている。続いて「旅行費用の安さ(共通乗車券などのメリットの充実)」(45%)、「自然の豊かさ」(44%)、「宿泊施設」(41%)が4割台で、「旅行商品(パッケージツアー)の豊富さ」(34%)、「食事」(31%)が3割台の回答となっている。「歴史・文化」という大きなテーマで海外観光旅行を決めていても、それ以外の項目も重要な決め手になっている。(図14)

男女別(図14)を見ると「旅行商品(パッケージツアー)の豊富さ」で、女性(37%)の方が男性(30%)より回答が高く、女性の方が旅行商品を詳細に調べている様子がうかがえる。一方、「旅行費用の安さ(共通乗車券などのメリットの充実)」では、男性(51%)が女性(40%)より11ポイント高く、男性の方が旅行費用の安さやメリットに敏感である。

図14 海外観光地を選ぶ決め手（全体・男女別）

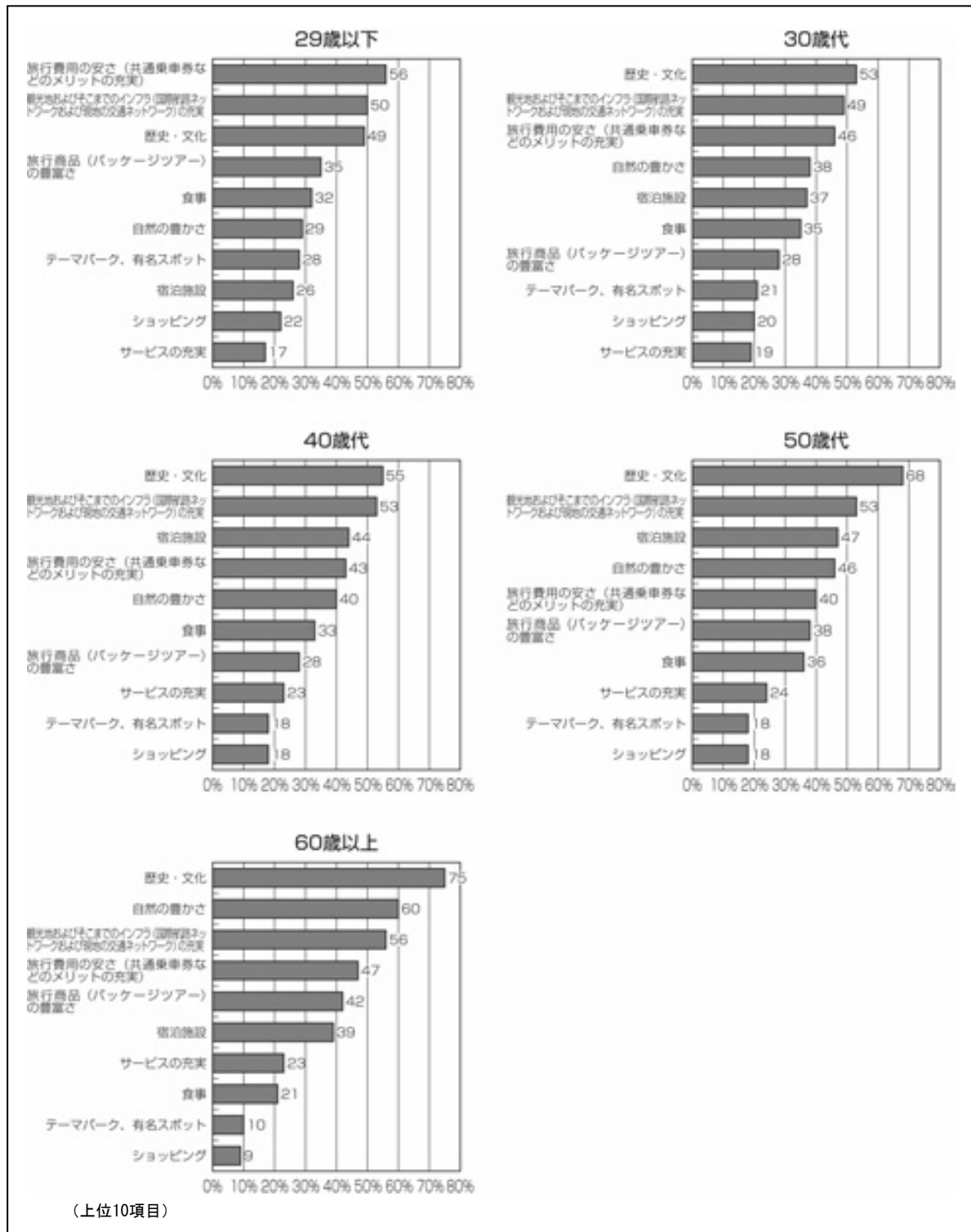


海外の観光地を選ぶ決め手を世代別（図15）に見ると、29歳以下を除くすべての世代で「歴史・文化」との回答が最も多い。異文化に触れることが海外旅行をする決め手と思われる。一方、29歳以下は「旅行費用の安さ（共通乗車券などのメリット

の充実)」との回答が最も多い。旅行費用にこだわりを持たざるを得ない世代と思われる。

また、「観光地およびそこまでのインフラ（国際航路ネットワークおよび現地の交通ネットワーク）の充実」は、60歳以上で第3位の回答だが、他の世代ではすべて第2位となっている。すべての世代でほぼ5割の回答となっており、これはやはり海外旅行をする決め手のひとつと思われる。

図15 海外観光地を選ぶ決め手（世代別）



項目を世代別（図16）に見ると「歴史・文化」「観光地およびそこまでのインフラ（国際航路ネットワークおよび現地の交通ネットワーク）の充実」「自然の豊かさ」については世代が上がるにつれて回答が高くなっている。

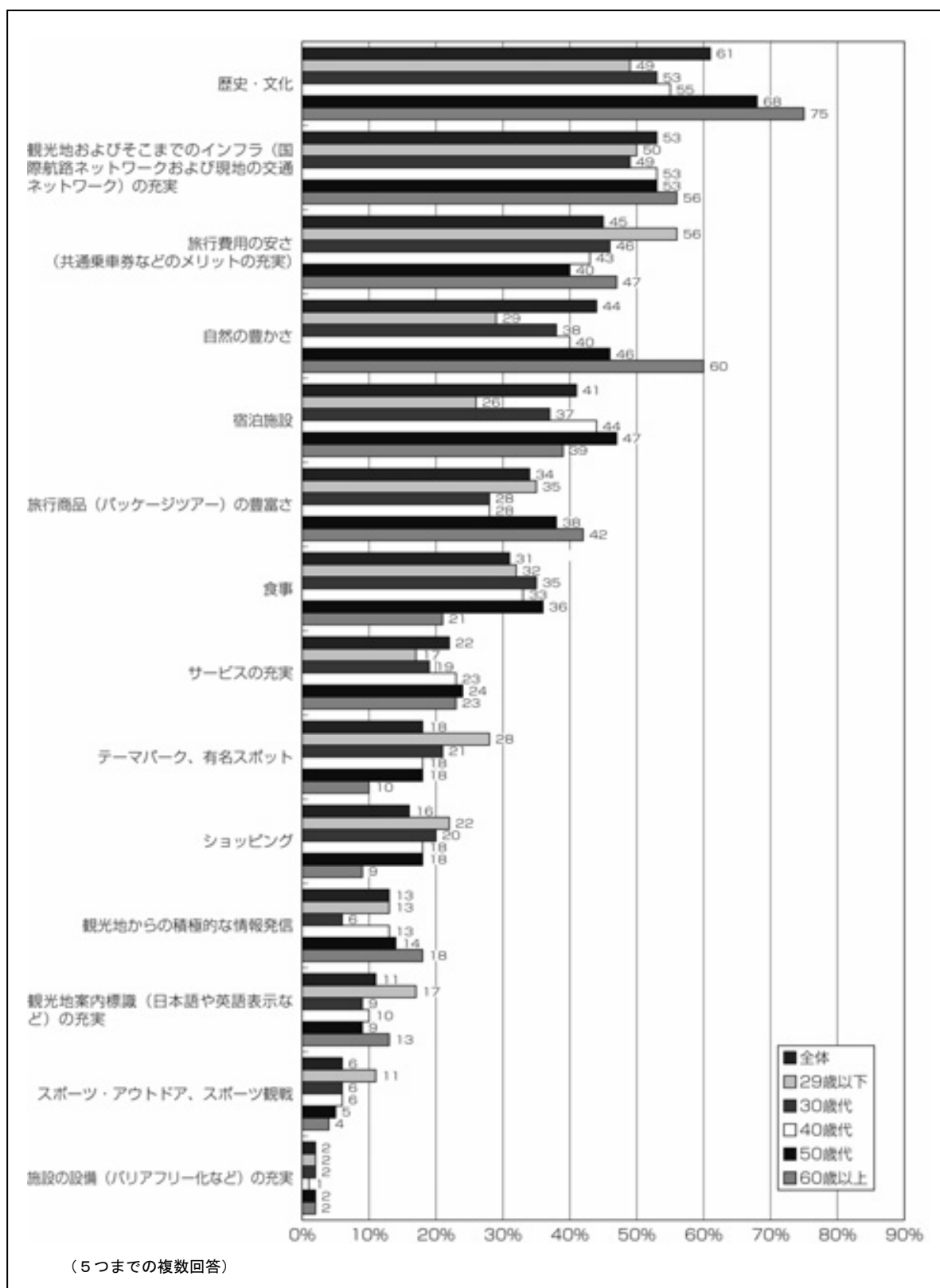
「旅行費用の安さ（共通乗車券などのメリットの充実）」は29歳以下が56%と、他の世代の4割台に比べると大きく突出している。

「宿泊施設」は60歳以上を除き世代が上がるにつれて、回答が高くなっている。

「食事」は60歳以上を除く各世代でほぼ同様の傾向となっている。

60歳以上の世代への取り組みで海外観光旅行市場はさらに拡大できる可能性がある。

図16 海外観光地を選ぶ決め手（全体・世代別）



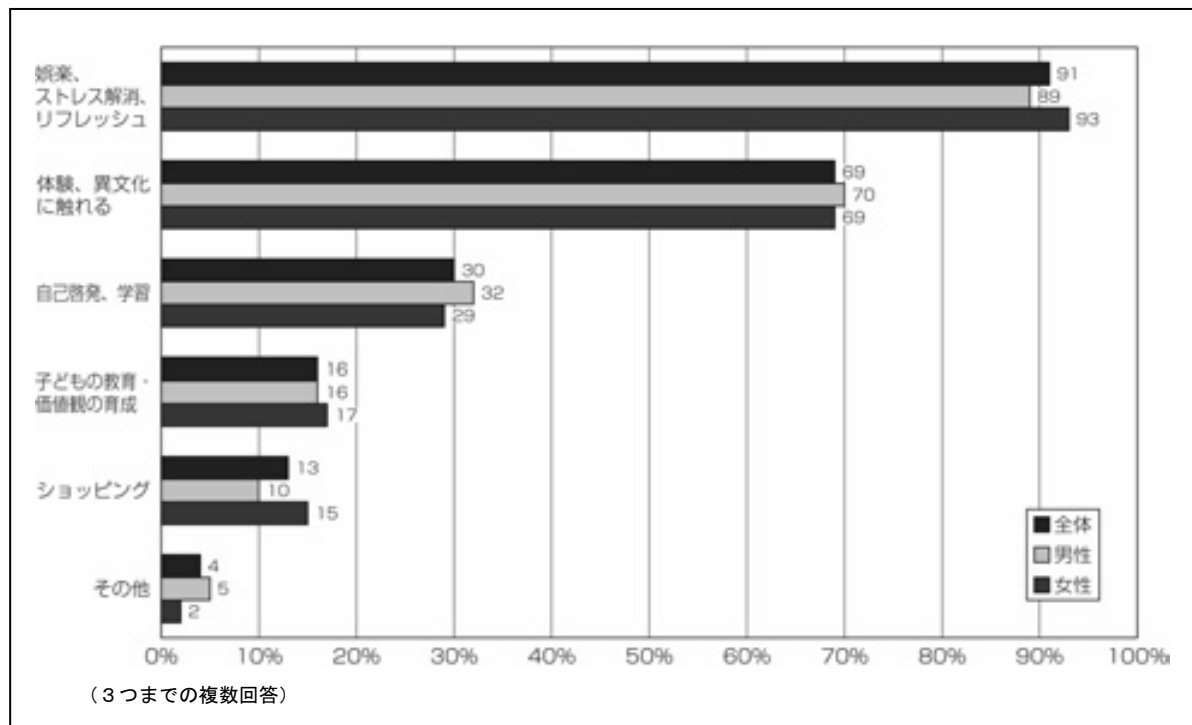
3. 観光旅行の目的

観光旅行の目的は「娯楽、ストレス解消、リフレッシュ」が91%

観光旅行をする目的は「娯楽、ストレス解消、リフレッシュ」が91%と最も多い。続いて「体験、異文化に触れる」(69%)、「自己啓発、学習」(30%)となっている。(図17)

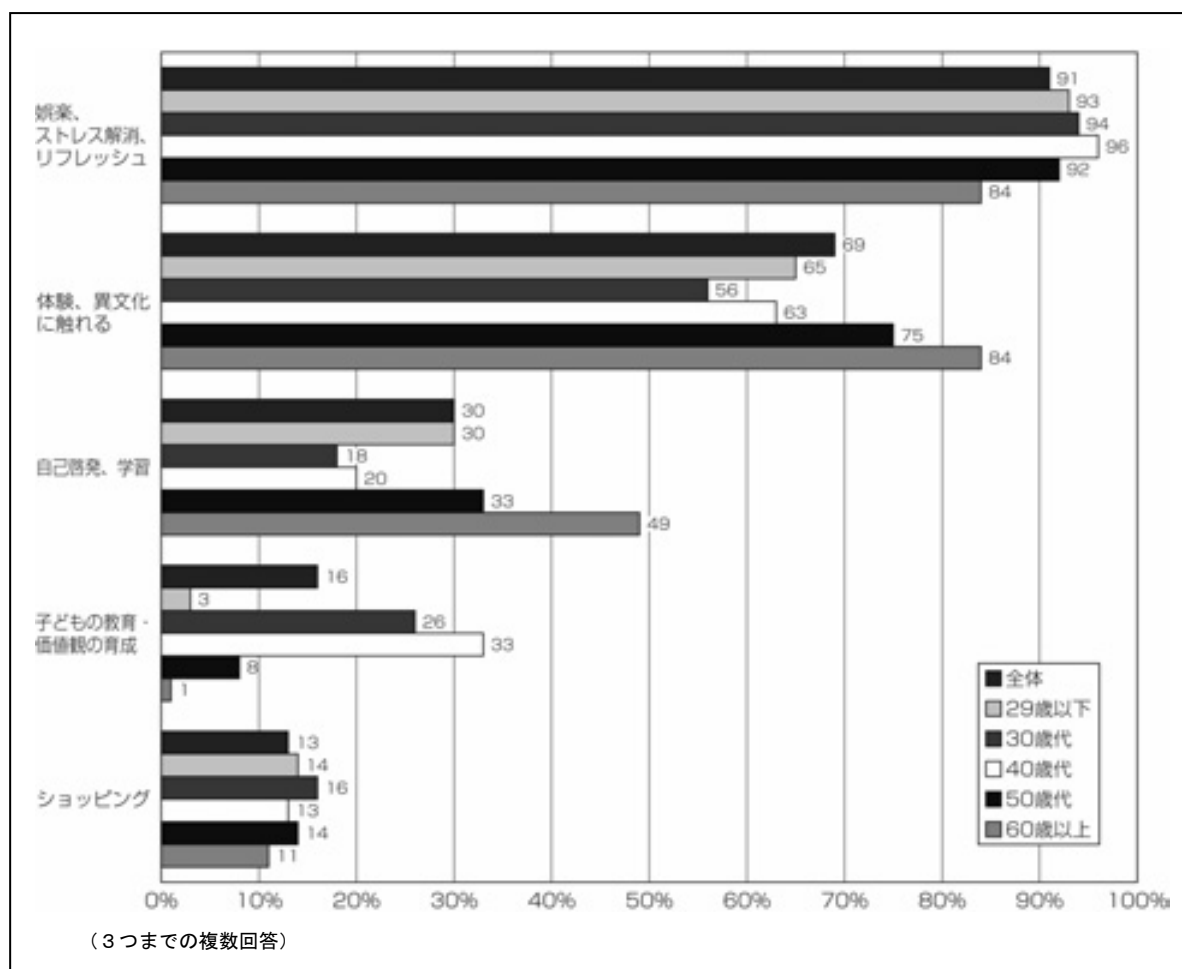
男女別(図17)に見ると「ショッピング」で女性(15%)が男性(10%)より5ポイント高い、その他の項目では男女でほとんど違いが見られない。

図17 観光旅行の目的(全体・男女別)



項目を世代別(図18)に見ると「娯楽、ストレス解消、リフレッシュ」が60歳以上を除き9割を超える回答となっている。一方、「体験、異文化に触れる」「自己啓発、学習」では、30歳代以上で、世代が上がるにつれて、回答が高くなっている。

図18 観光旅行の目的（全体・世代別）



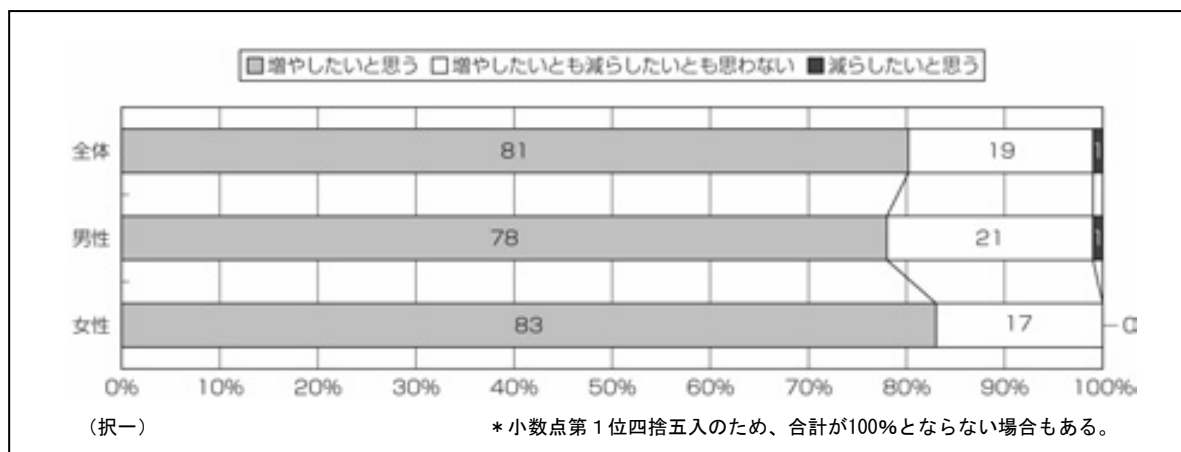
4. 観光旅行に費やす日数

観光旅行日数を「増やしたいと思う」が81%

今後の観光旅行の日数については「増やしたいと思う」(81%)が8割を超えている。「増やしたいとも減らしたいとも思わない」(19%)は約2割となっている。(図19)

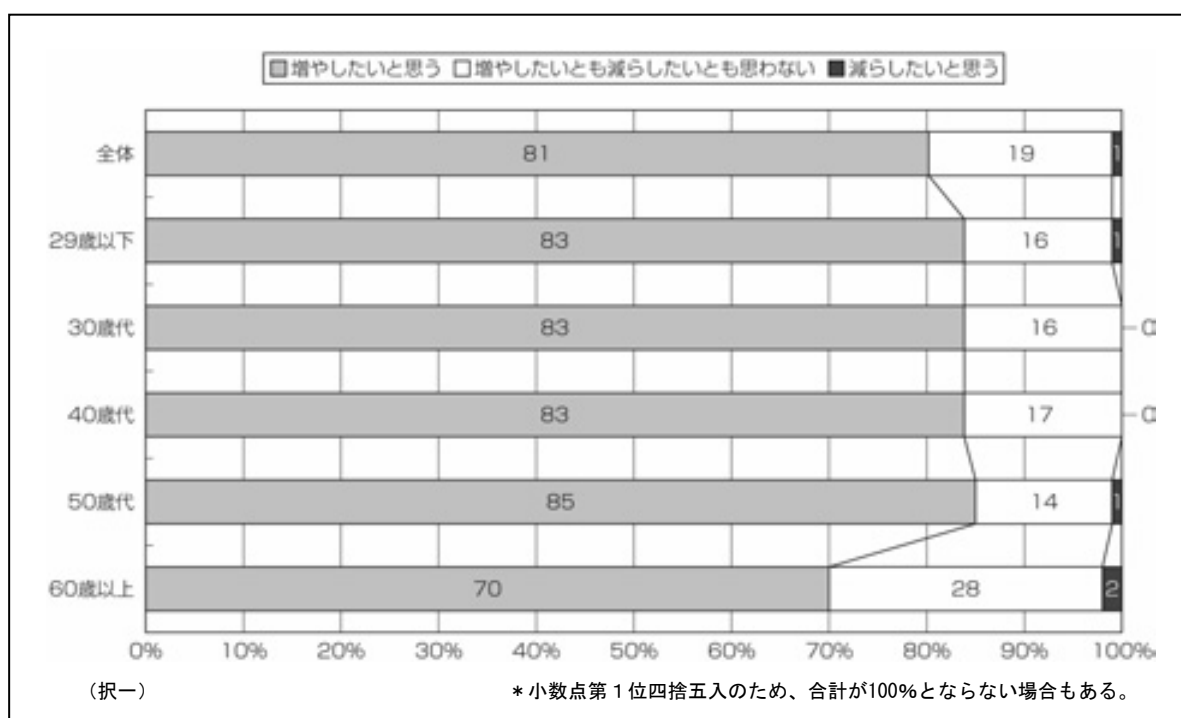
男女別(図19)に見ると「増やしたいと思う」は女性(83%)が男性(78%)より5ポイント高い。一方、「増やしたいとも減らしたいとも思わない」は、男性(21%)の方が女性(17%)より4ポイント上回っている。

図19 観光旅行に費やす日数（全体・男女別）



世代別（図20）に見ると観光旅行の日数を「増やしたいと思う」が29歳以下から50歳代までは83～85%とほぼ同様の回答割合になっているが、60歳以上では70%と低くなっている。その分、旅行日数を「増やしたいとも減らしたいとも思わない」の回答が、他の世代より10ポイント以上高くなっている。

図20 観光旅行に費やす日数（全体・世代別）

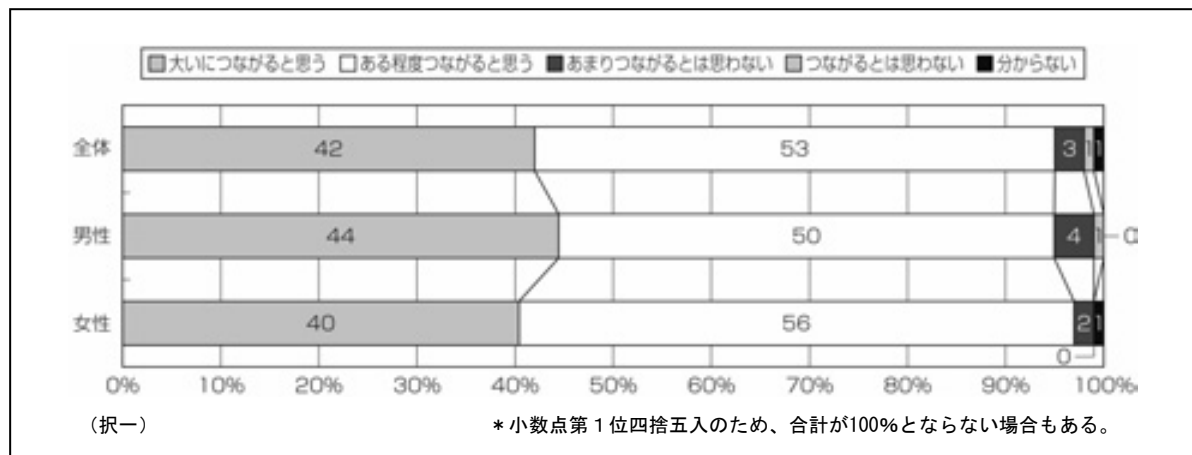


5. 観光産業の推進と地方の活性化

観光産業の推進が地方の活性化に「つながると思う（大いに/ある程度）」が95%

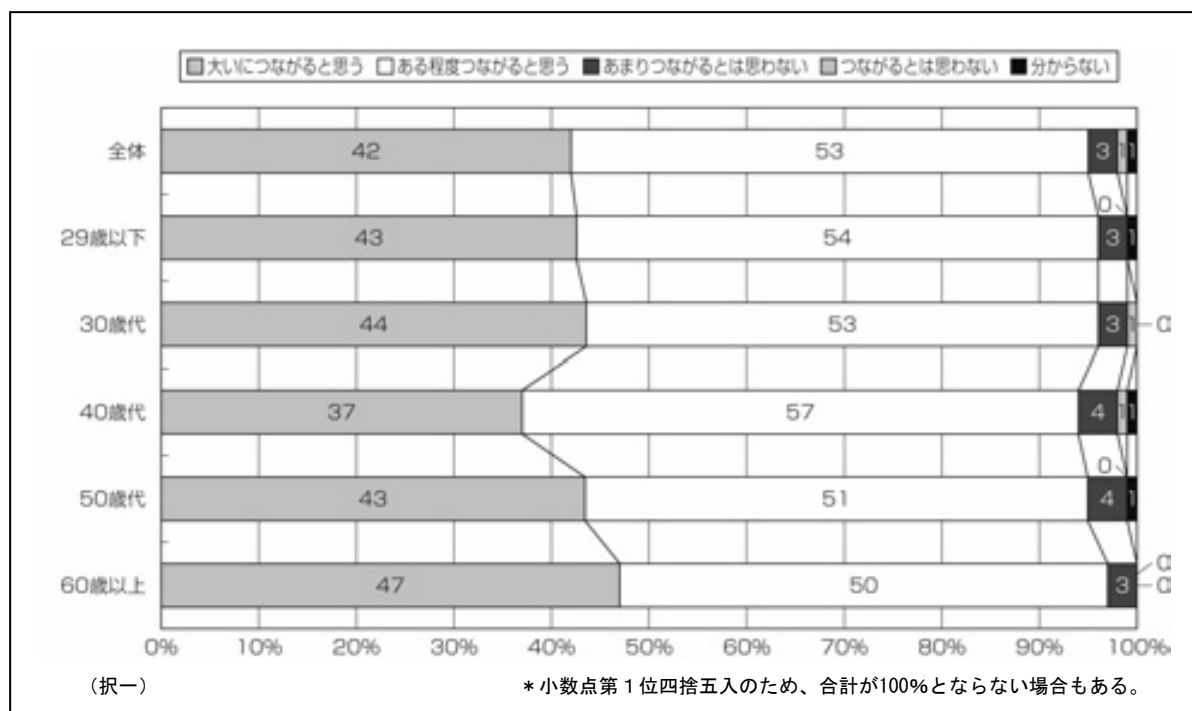
日本の観光地での観光産業の推進が地方の活性化(地方が元気になること)に「大いにつながると思う」(42%)と「ある程度つながると思う」(53%)を合わせると95%となり、生活者は観光産業の推進が地方の活性化に役立つと考えている。(図21)

図21 観光産業の推進と地方の活性化（全体・男女別）



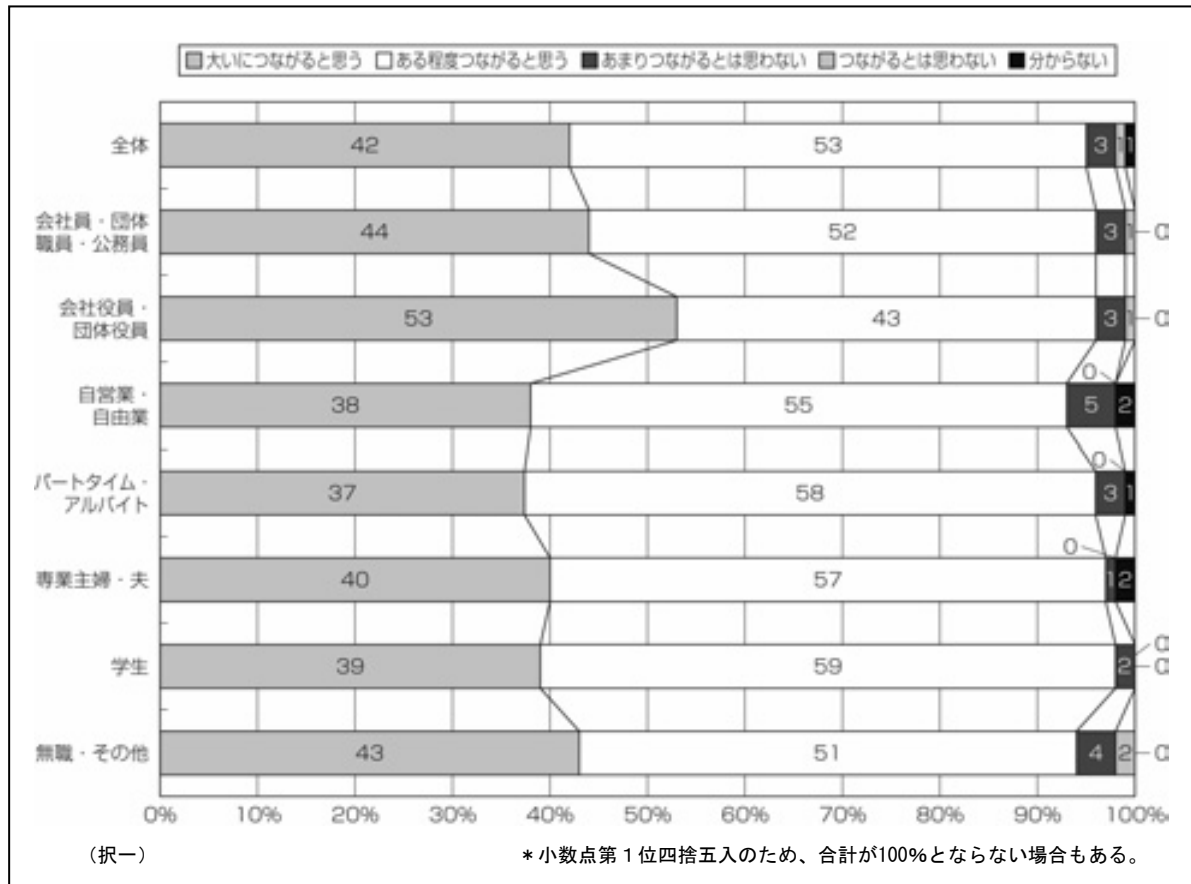
世代別(図22)に見ると「大いにつながると思う」との回答は40歳代が最も低く37%である。29歳以下、30歳代、50歳代、60歳以上は4割を超えている。

図22 観光産業の推進と地方の活性化（全体・世代別）



職業別（図23）に見ると「大いにつながると思う」は、「会社役員・団体役員」が53%と最も高く、唯一半数を超えている。企業や団体の活動を通じて地域振興に関心が高いためと思われる。

図23 観光産業の推進と地方の活性化（全体・職業別）



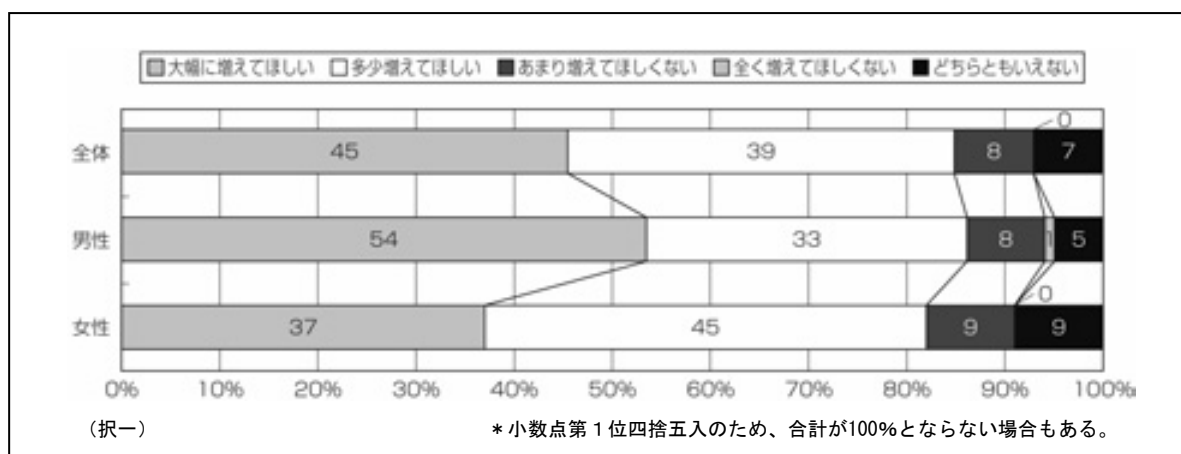
6. 外国人観光客の受け入れ

日本の観光地に外国人観光客が「増えてほしい（大幅に/多少）」が84%

日本の観光地に外国人観光客が「大幅に増えてほしい」（45%）と「多少増えてほしい」（39%）を合わせると84%となっている。（図24）

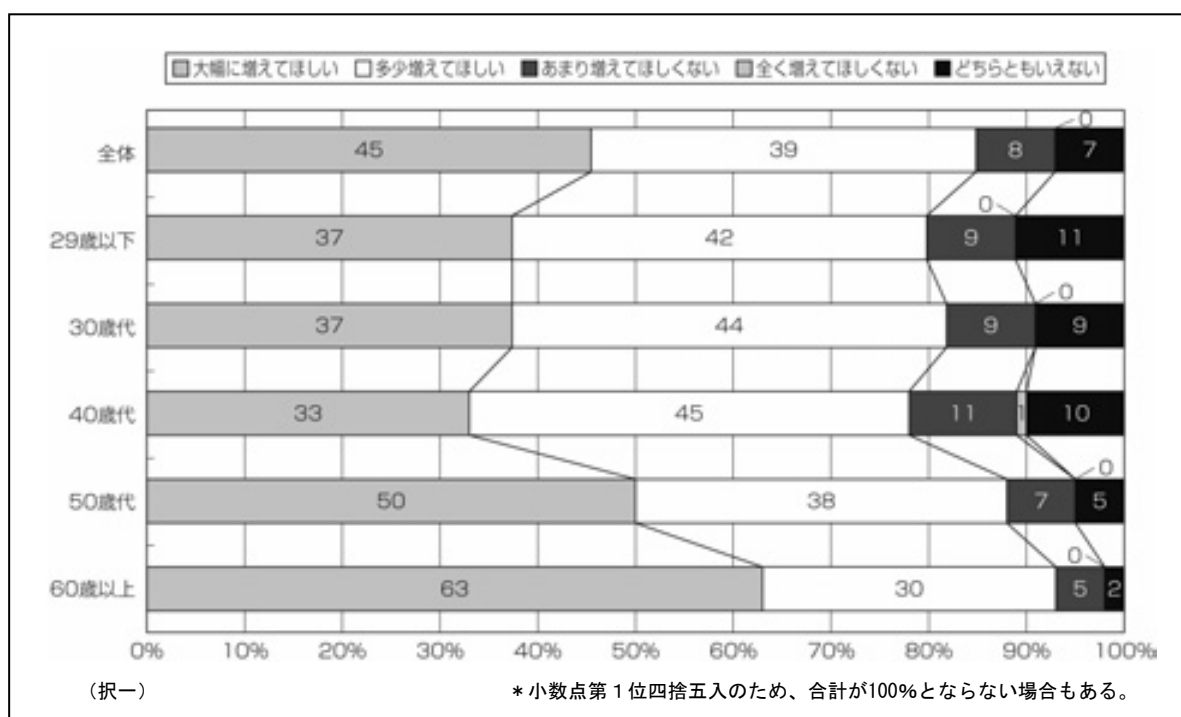
男女別（図24）に見ると「大幅に増えてほしい」が男性54%、女性37%で、男性の方が女性より積極的に外国人観光客が増えてほしいと思っている。

図24 外国人観光客増加について（全体・男女別）



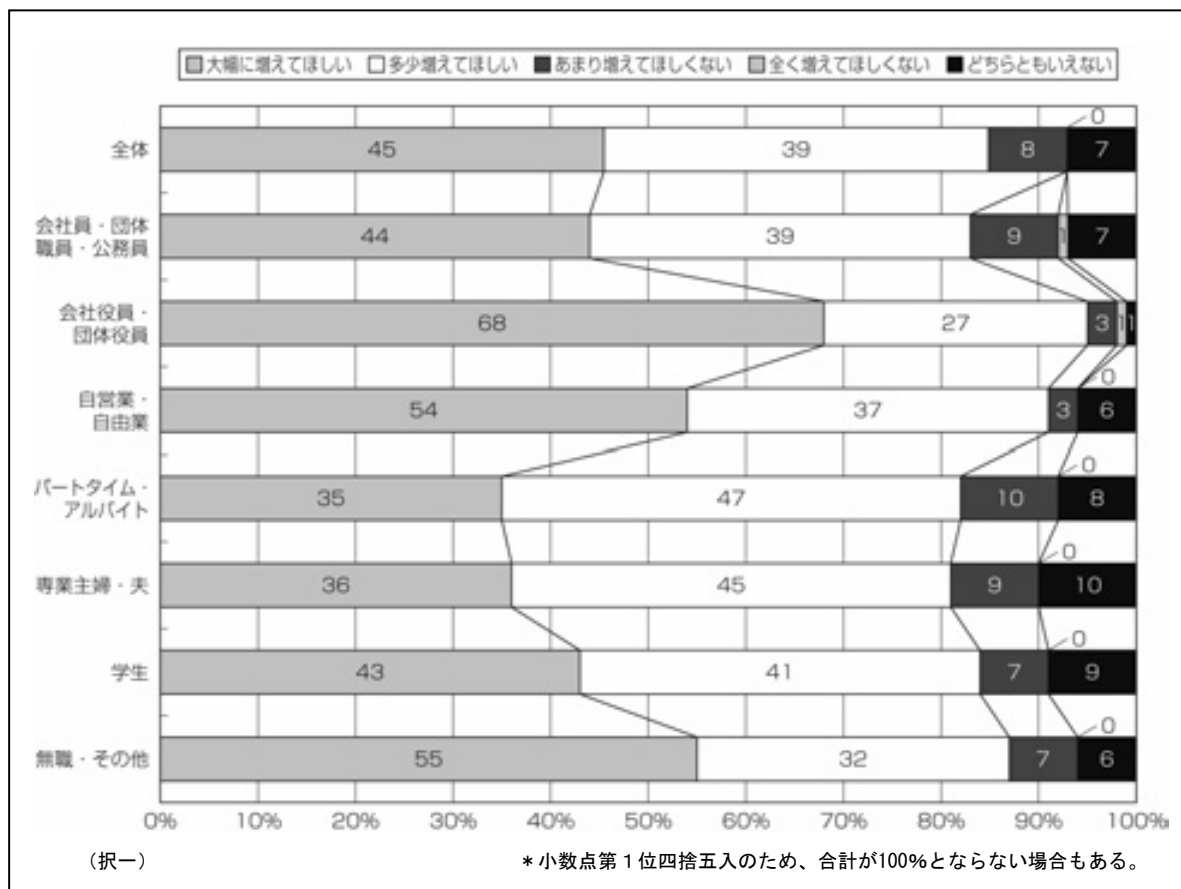
世代別（図25）に見ると外国人観光客が「増えてほしい（大幅に/多少）」が29歳以下、30歳代、40歳代で8割前後であるのに対して、50歳代は9割近くになり、60歳以上では9割を超えている。世代が上がるにつれて、外国人観光客の増加を望んでいる。

図25 外国人観光客増加について（全体・世代別）



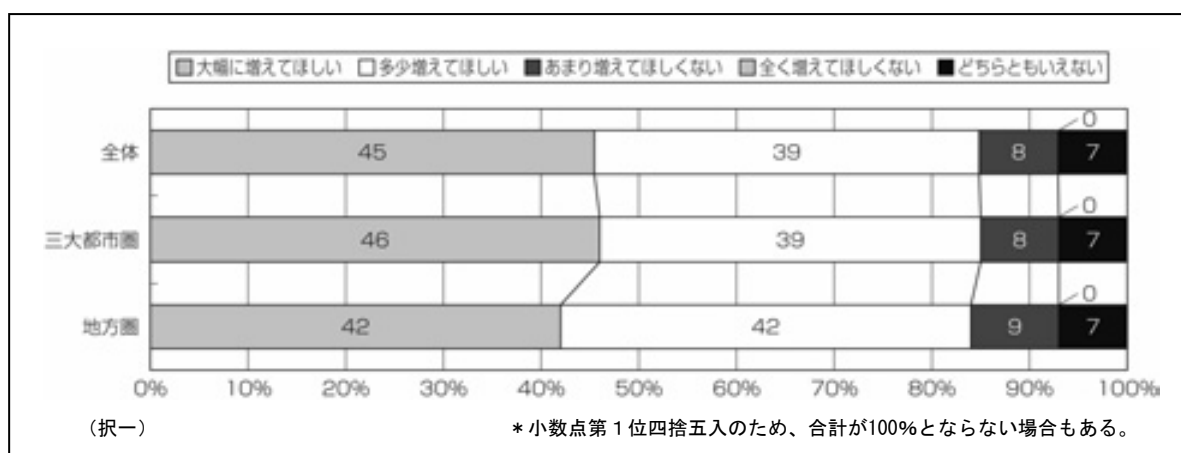
職業別（図26）に見ると外国人観光客が「増えてほしい（大幅に/多少）」との回答は、「会社役員・団体役員」（95%）と「自営業・自由業」（91%）で9割を超えている。特に「大幅に増えてほしい」では、「会社役員・団体役員」が68%と、他の職業より極めて高くなっている。

図26 外国人観光客増加について（全体・職業別）



居住地別（図27）に見ると「大幅に増えてほしい」が「三大都市圏」（46%）で「地方圏」（42%）より4ポイント高くなっている。

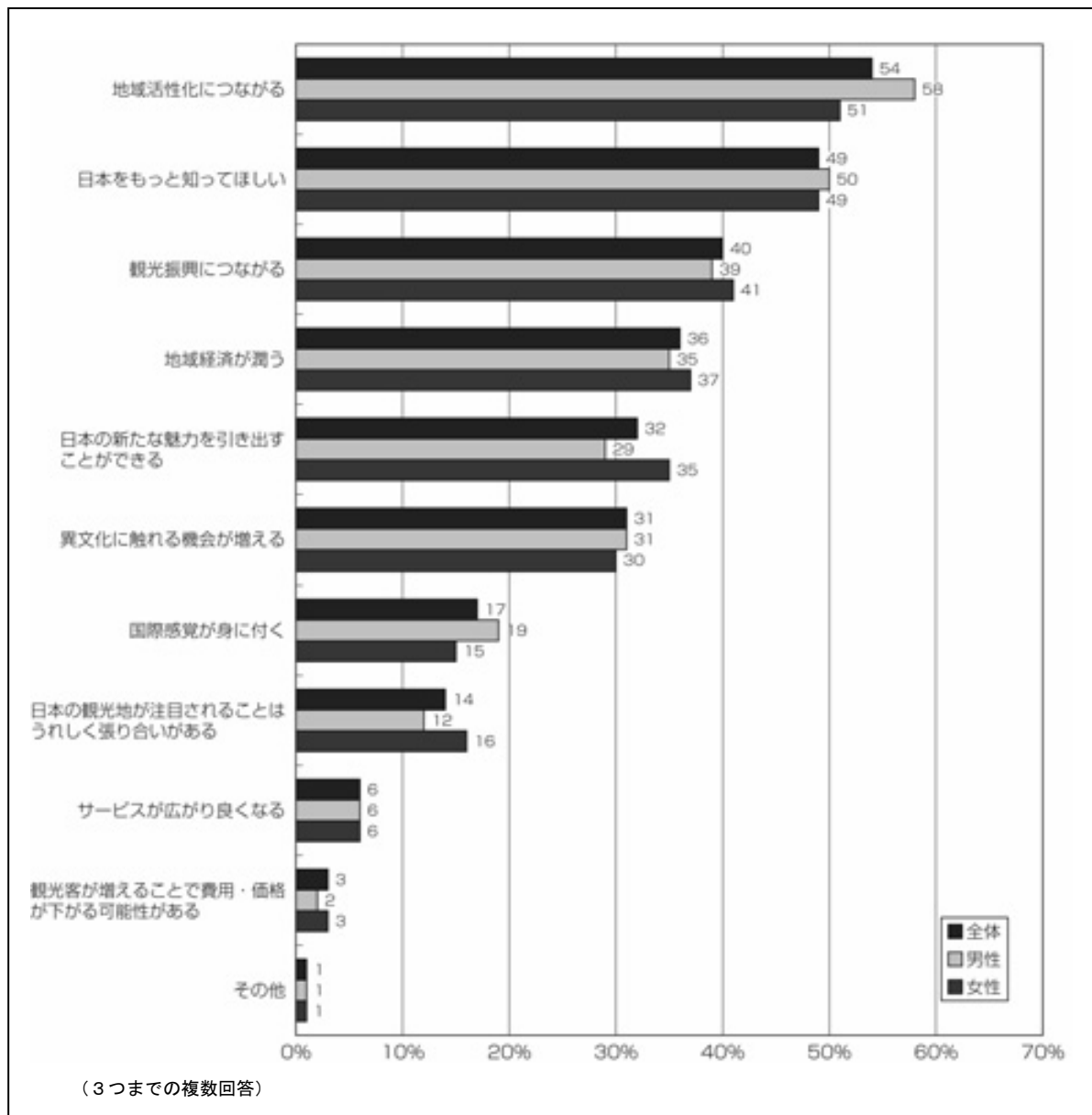
図27 外国人観光客増加について（全体・居住地別）



「地域活性化につながる」が54%

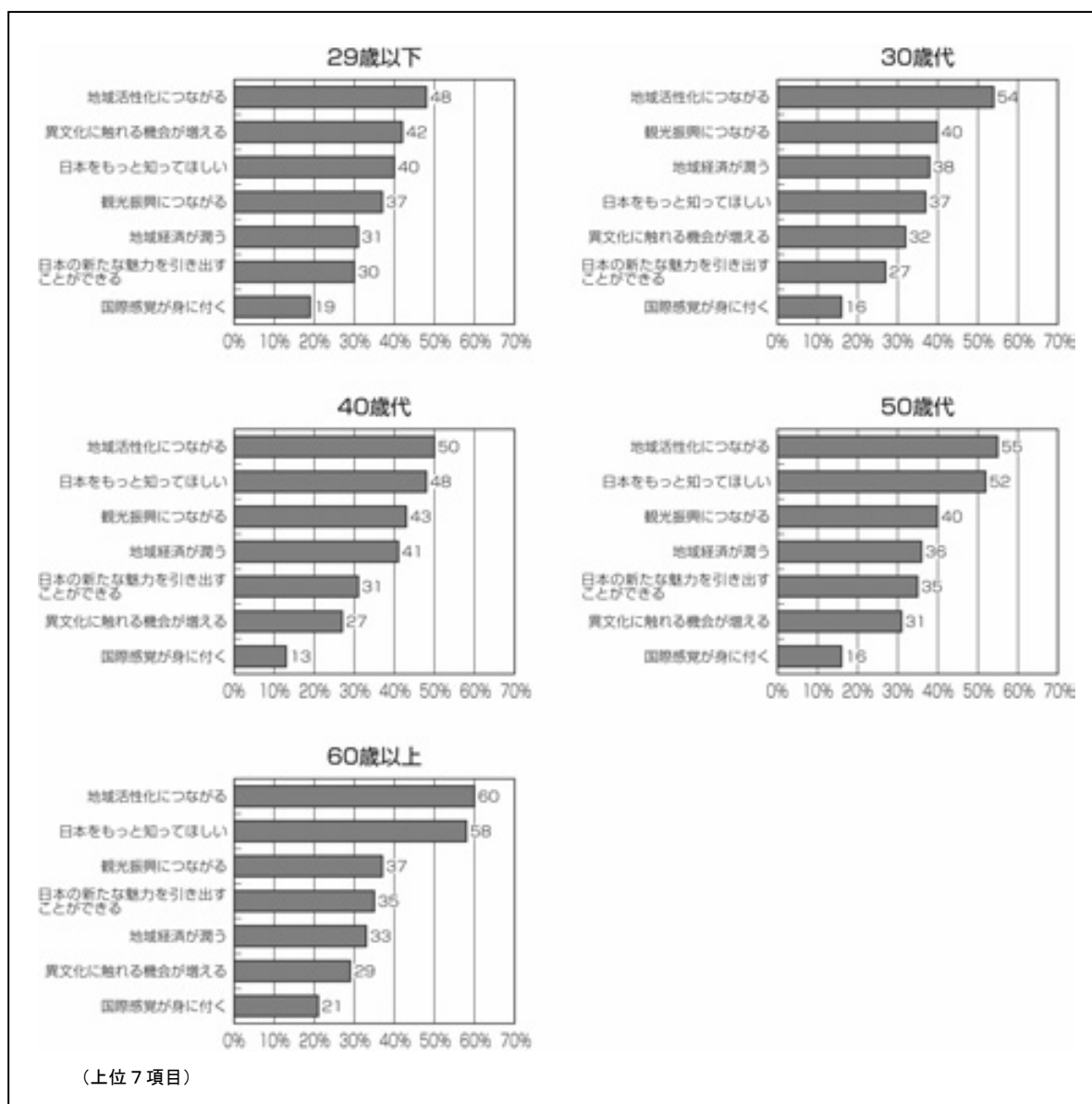
外国人観光客が「増えてほしい（大幅に/多少）」と回答した理由を聞くと、「地域活性化につながる」（54%）、「日本をもっと知ってほしい」（49%）、「観光振興につながる」（40%）、「地域経済が潤う」（36%）、「日本の新たな魅力を引き出すことができる」（32%）の順になっている。経済的理由（「地域活性化につながる」「観光振興につながる」「地域経済が潤う」）と日本の理解促進（「日本をもっと知ってほしい」「日本の新たな魅力を引き出すことができる」）の2つの考え方が上位を占めている。生活者は外国人観光客の増加に開かれた態度や考えであることが分かる。（図28）

図28 外国人観光客が増えてほしい理由（全体・男女別）



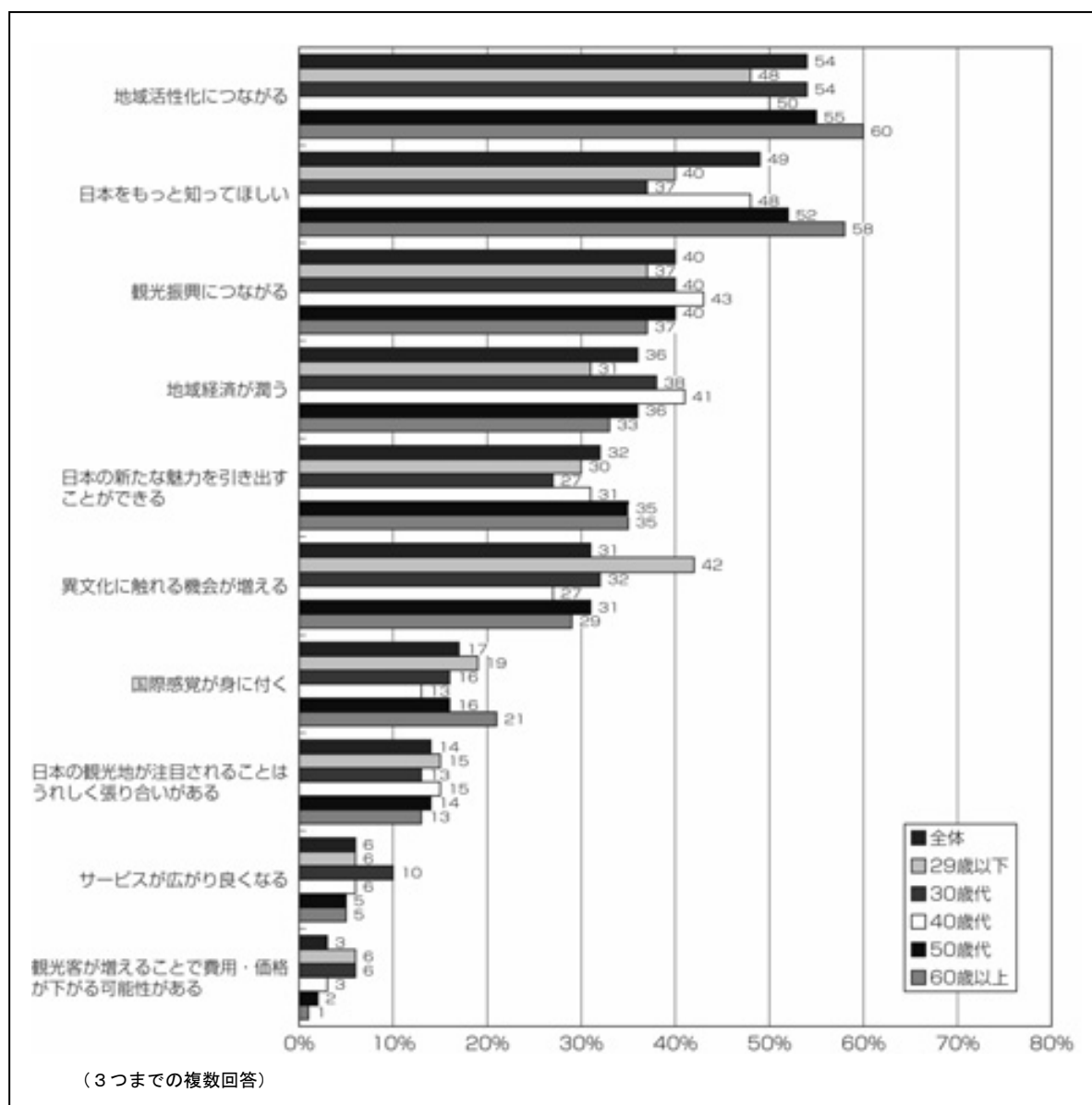
世代別（図29）に見ると、外国人観光客増加に賛成の理由についてすべての世代で「地域活性化につながる」との回答が最も多くなっている。特に40歳代以上ではいずれの世代でも1位が「地域活性化につながる」、2位が「日本をもっと知ってほしい」、3位が「観光振興につながる」となっていて、ほぼ同じ傾向となっている。

図29 外国人観光客が増えてほしい理由（世代別）



項目を世代別（図30）に見ると「観光振興につながる」では30歳代、40歳代、50歳代で40%台と高い回答となっている。

図30 外国人観光客が増えてほしい理由（全体・世代別）



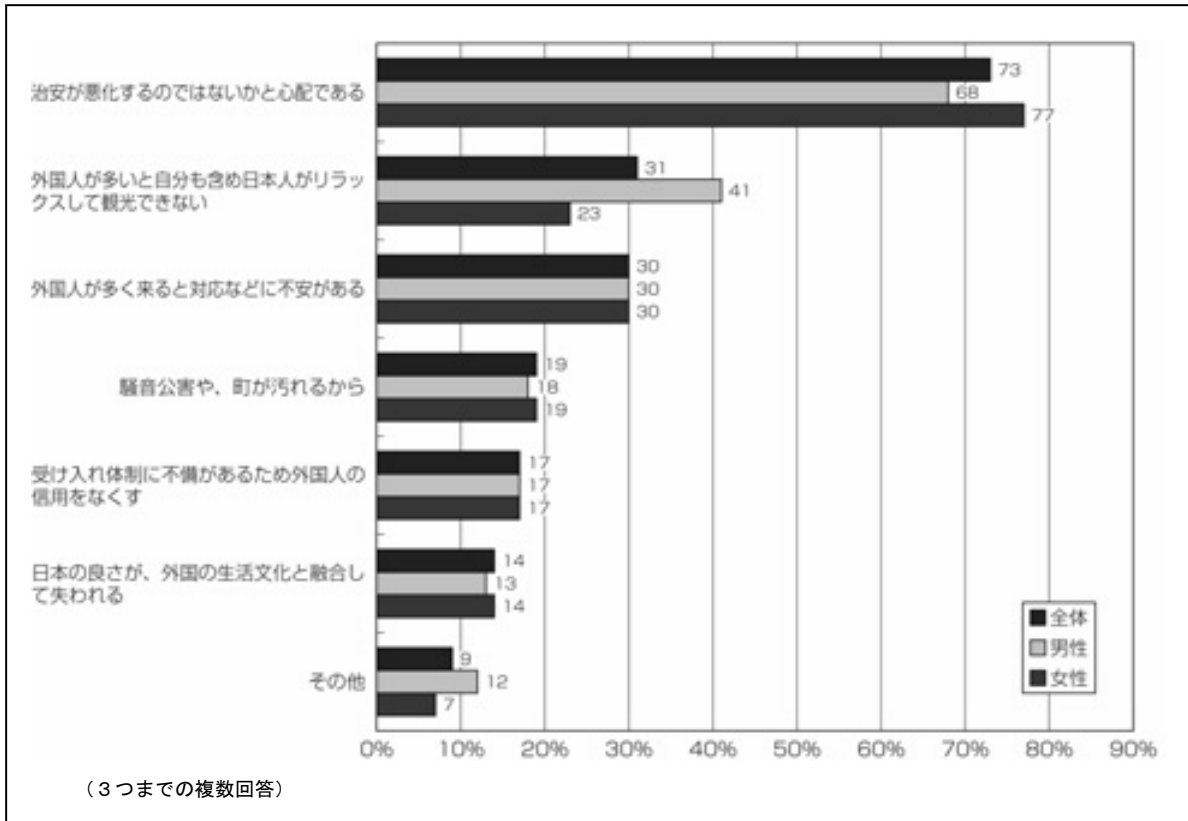
「治安が悪化するのではないかと心配である」が73%

外国人観光客が「増えてほしくない（あまり/全く）」（8%）と回答した理由を聞くと、「治安が悪化するのではないかと心配である」が73%で、他の回答を大きく引き離している。治安の問題にしっかり対応すれば外国人観光客の増加に反対する人が減り、外国人観光客を歓迎する傾向が強まるとされる。続いて「外国人が多いと自分も含め日本人がリラックスして観光できない」（31%）と「外国人が多く来ると対応などに不安がある」（30%）が3割程度となっている。外国人観光客に対する対応や接し方についての、日本人自身や観光地の対応に心理的な不安も存在してい

る点を認めている。(図31)

男女別(図31)に見ると「治安が悪化するのではないかと心配である」との回答は女性が77%、男性が68%と9ポイントの差が見られる。女性は、治安に、より敏感に反応している。「外国人が多いと自分も含め日本人がリラックスして観光できない」は、男性41%、女性23%となり18ポイントと大きな差がある。

図31 外国人観光客が増えてほしくない理由(全体・男女別)

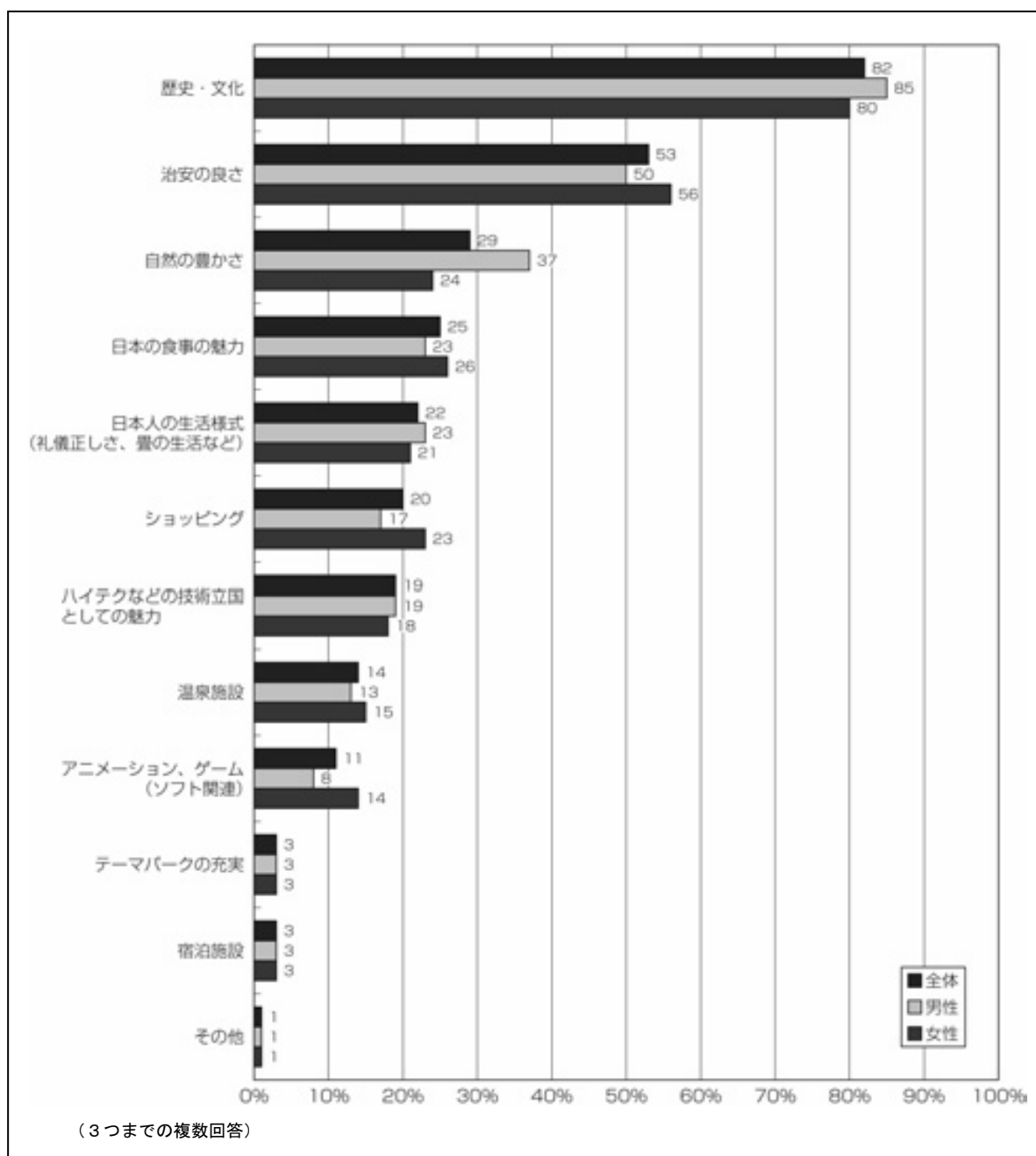


外国人が日本の観光地に感じる魅力は「歴史・文化」が82%

外国人が日本の観光地のこういった点に魅力を感じるかについて生活者に聞くと、「歴史・文化」(82%)、「治安の良さ」(53%)が上位を占めており、日本の古来からの伝統に魅力があるのではないかと考えている。(図32)

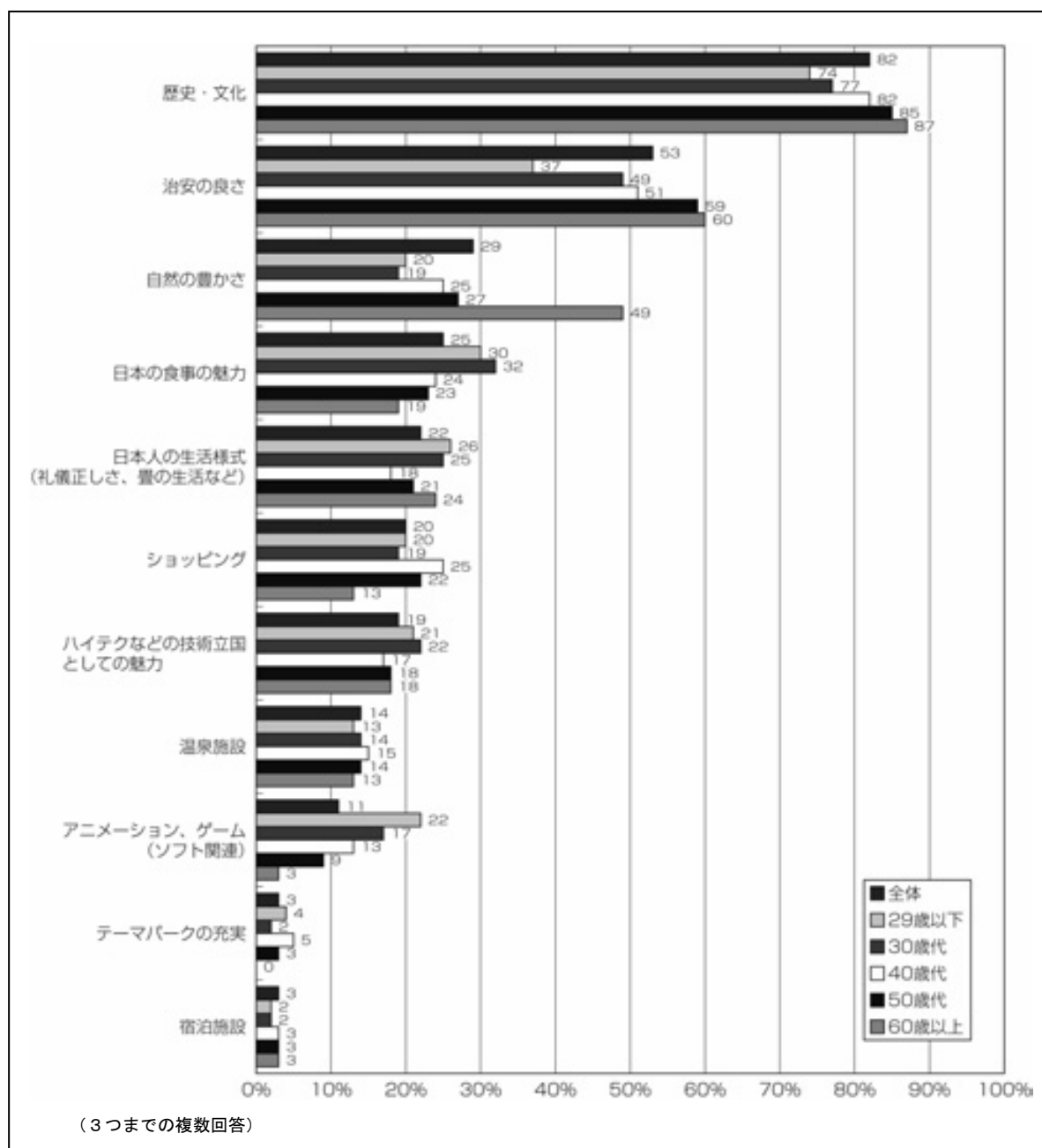
男女別(図32)に見ると「歴史・文化」で5ポイント、「自然の豊かさ」で13ポイント男性の方が上回っているが、「治安の良さ」では、女性の方が男性より6ポイント高くなっている。

図32 日本の観光地の魅力（全体・男女別）



項目を世代別（図33）に見ると世代が上がるにつれて、「歴史・文化」「治安の良さ」「自然の豊かさ」が高くなっている。

図33 日本の観光地の魅力（全体・世代別）



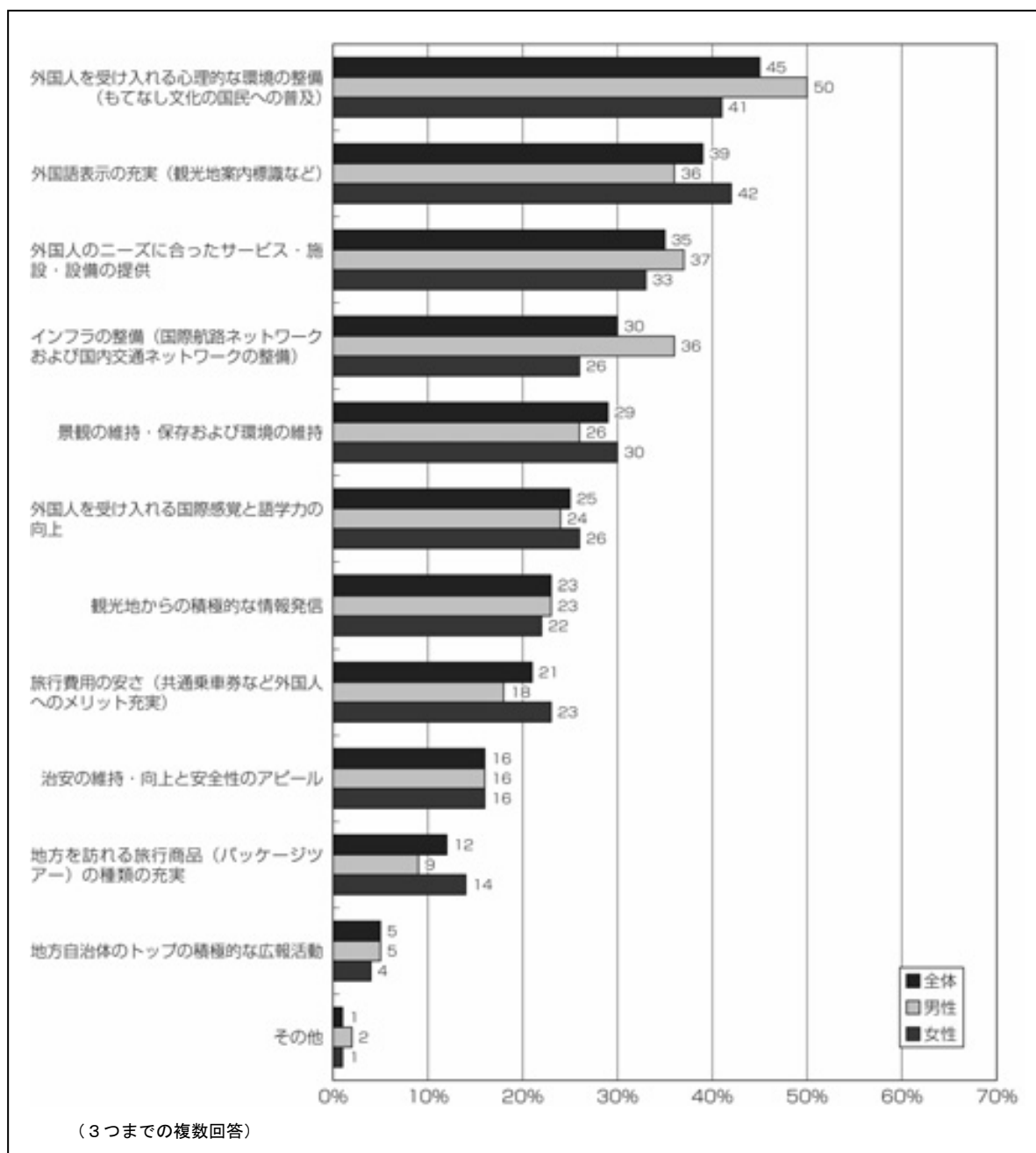
外国人観光客を増やすために必要なことは「外国人を受け入れる心理的な環境の整備」が45%

外国人観光客を増やすために必要なことについては「外国人を受け入れる心理的な環境の整備（もてなし文化の国民への普及）」が45%、続いて「外国語表示の充実（観光地案内標識など）」(39%)、「外国人のニーズに合ったサービス・施設・設備の提供」(35%)、「インフラの整備（国際航路ネットワークおよび国内交通ネットワークの整備）」(30%)となっている。それぞれの地域だけでなく日本全体として外

国人を受け入れる「気持ち」など、心理的な環境を整えることが何よりも課題である。

また、「外国語表示の充実」「外国人のニーズに合ったサービス・施設・設備の提供」「インフラの整備」といった項目では、広域連携することで、対応などの一本化が図られ、最大限の効果を上げることが期待できよう。(図34)

図34 外国人観光客増加のために必要なこと（全体・男女別）

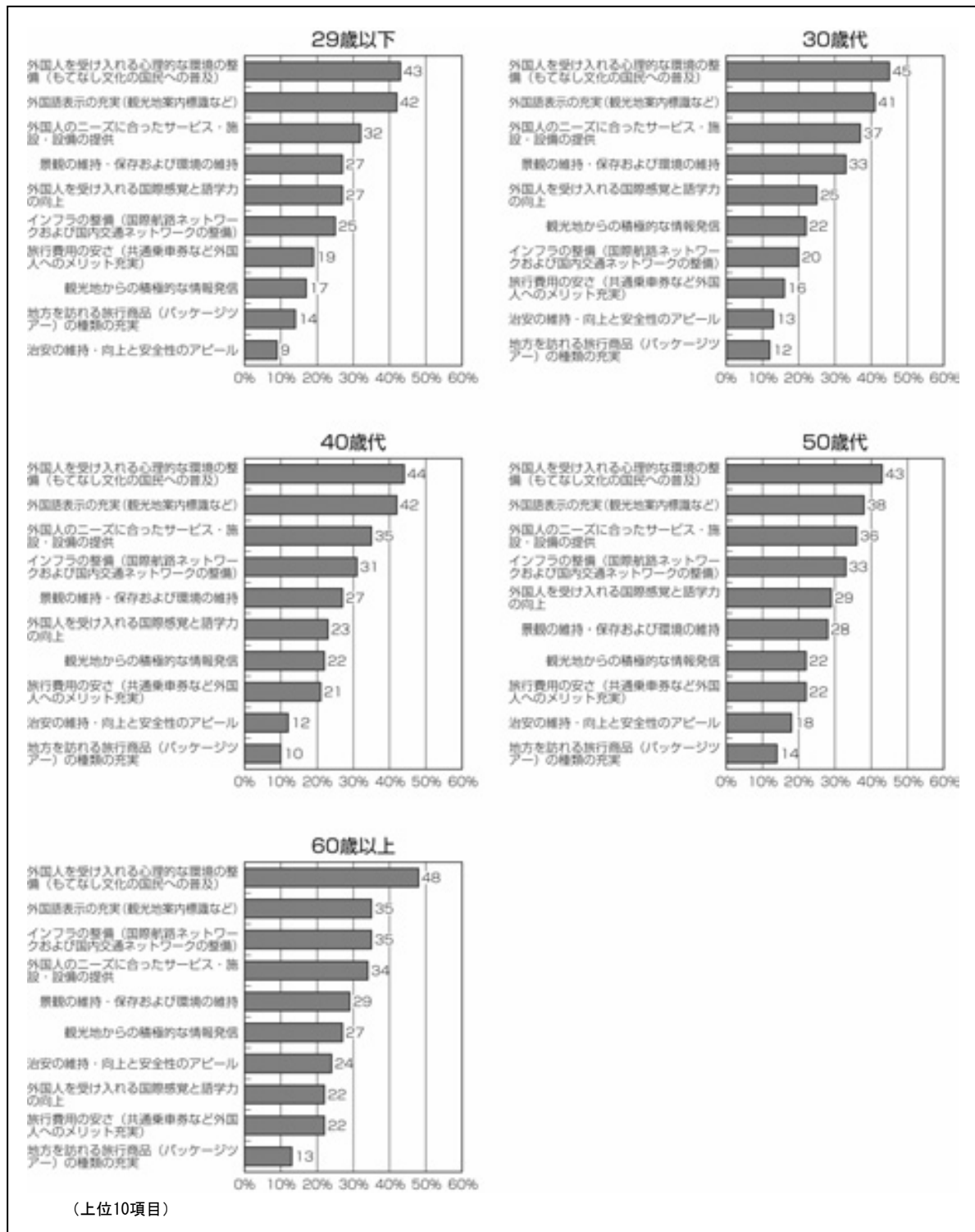


外国人観光客を増やすために必要なことについて、世代別 (図35) に見るとすべての世代で、第1位が「外国人を受け入れる心理的な環境の整備 (もてなし文化の

国民への普及)」、第2位が「外国語表示の充実(観光地案内標識など)」となっている。

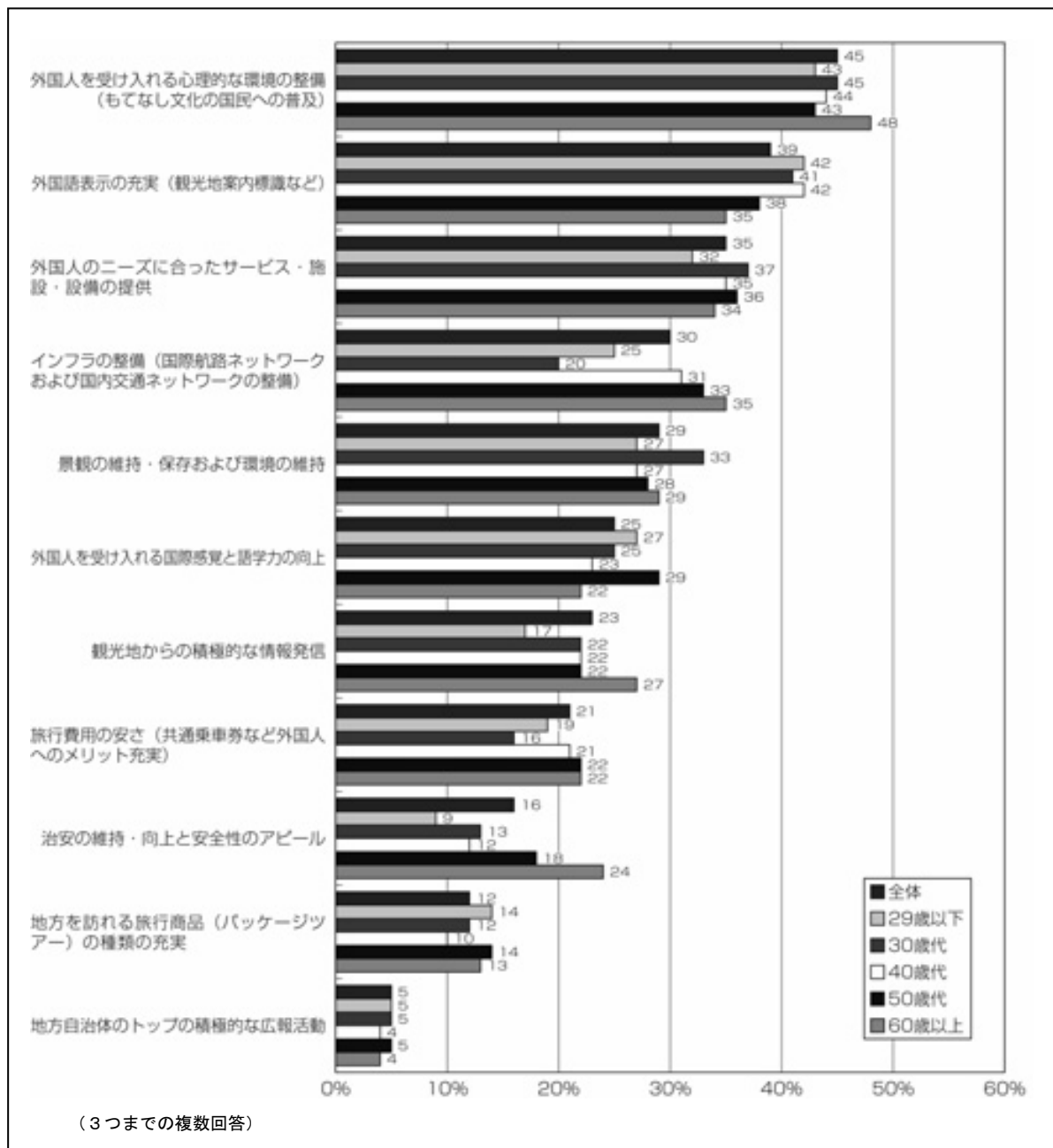
また、60歳以上を除くすべての世代で「外国人のニーズに合ったサービス・施設・設備の提供」が第3位となっており、サービスの質や施設などの面の充実が必要と考えられている。

図35 外国人観光客増加のために必要なこと(世代別)



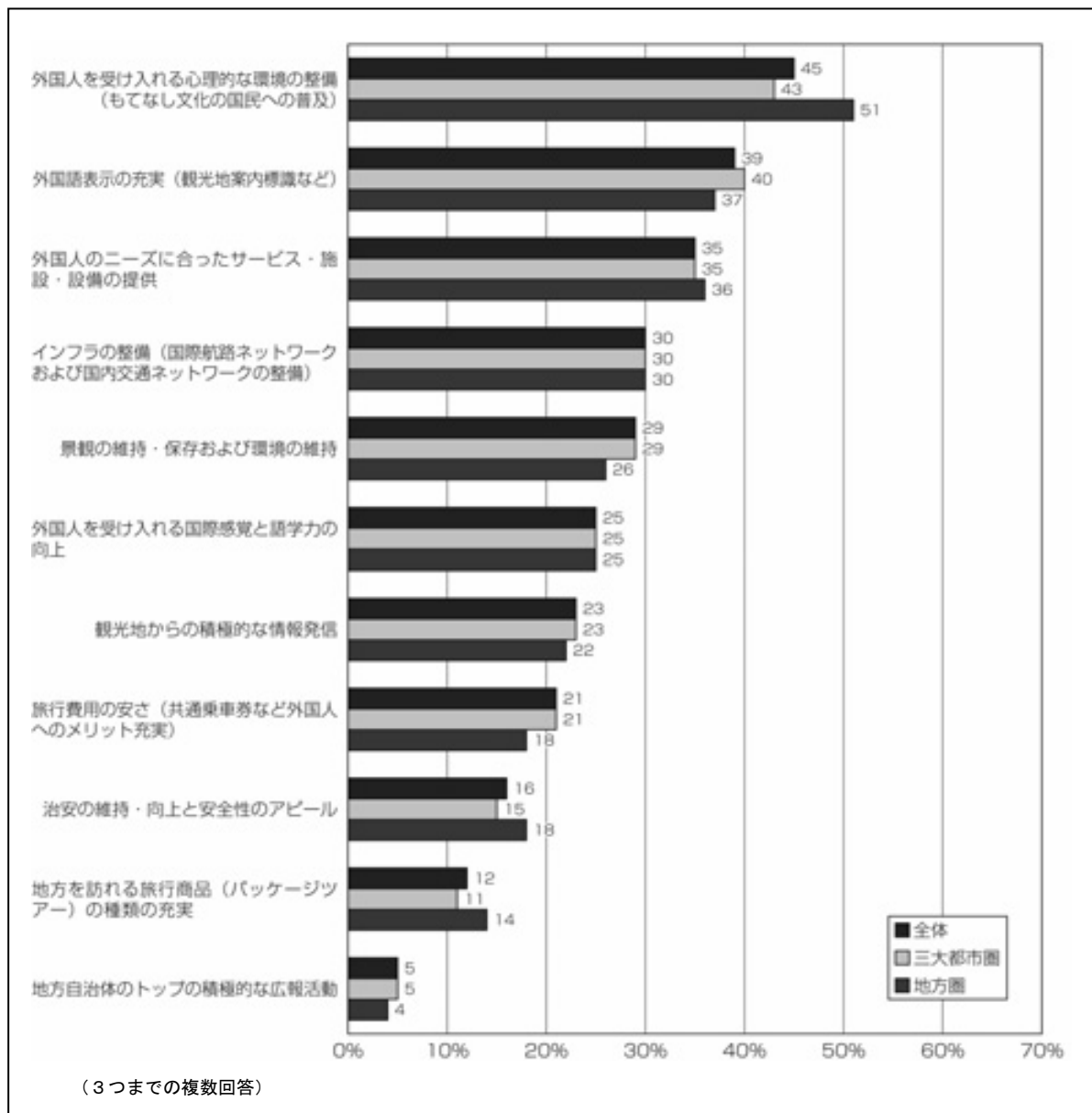
項目別（図36）に見るとどの世代も「外国人を受け入れる心理的な環境の整備（もてなし文化の国民への普及）」が外国人観光客増加のために必要であると回答している。続いて「外国語表示の充実（観光地案内標識など）」「外国人のニーズに合ったサービス・施設・設備の提供」となっている。おおむねどの世代も同様の回答となり、外国人を受け入れる心理面と物理面では世代間に考えの違いがないことがうかがえる。

図36 外国人観光客増加のために必要なこと（全体・世代別）



居住地別（図37）を見ると、「三大都市圏」と「地方圏」で「外国語表示の充実（観光地案内標識など）」「外国人のニーズに合ったサービス・施設・設備の提供」などで差は見られないが、「外国人を受け入れる心理的な環境の整備（もてなし文化の国民への普及）」では、「地方圏」（51%）の方が「三大都市圏」（43%）より8ポイントも上回っている。「地方圏」では外国人受け入れのために意識改革が必要だと考えている。

図37 外国人観光客増加のために必要なこと（全体・居住地別）



地域の活性化と観光に関する意識・実態調査報告書

2008年3月

発行／財団法人経済広報センター 常務理事・事務局長 田中秀明

文責・担当／国内広報部 主任研究員 樋野泰人

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-6-1 大手町ビル7階

TEL：03-3201-1412 FAX：03-3201-1404